GAMEST MOOK / EX SERIES VOL.74
平成10年12月27日発行 第5巻第67号通巻175号

いちょうの舞う頃
Autumn Colors
ART COLLECTION



Illustration Gallery
全カラーイラスト掲載
Original Picture
秘蔵の設定資料収録
How to Clear
チャート式攻略でエンディングまで解説

GAMEST MOOK / EX SERIES VOL.74
いちょうの舞う頃 ART COLLECTION

新声社





9784881995709



1929476020000
ISBN4-88199-570-7 C9476 ¥2000E
定価/本体2000円+税
雑誌63382-76

Printed in Japan



雑誌63382-76

GAMEST MOOK / EX SERIES VOL.74

いちょうの舞う頃

ART COLLECTION

平成10年12月27日発行 第5巻第67号通巻175号
●発行人：加藤 博 ●編集人：高橋己代子 ●発行：株式会社 新声社 〒101-8935 東京都千代田区神田神保町1-26 TEL 03(3293)9321

新声社

GAMEST MOOK / EX SERIES VOL.74

平成10年12月27日発行 第5巻第67号通巻175号

いちょうの舞う頃
AutumnColors

ART COLLECTION

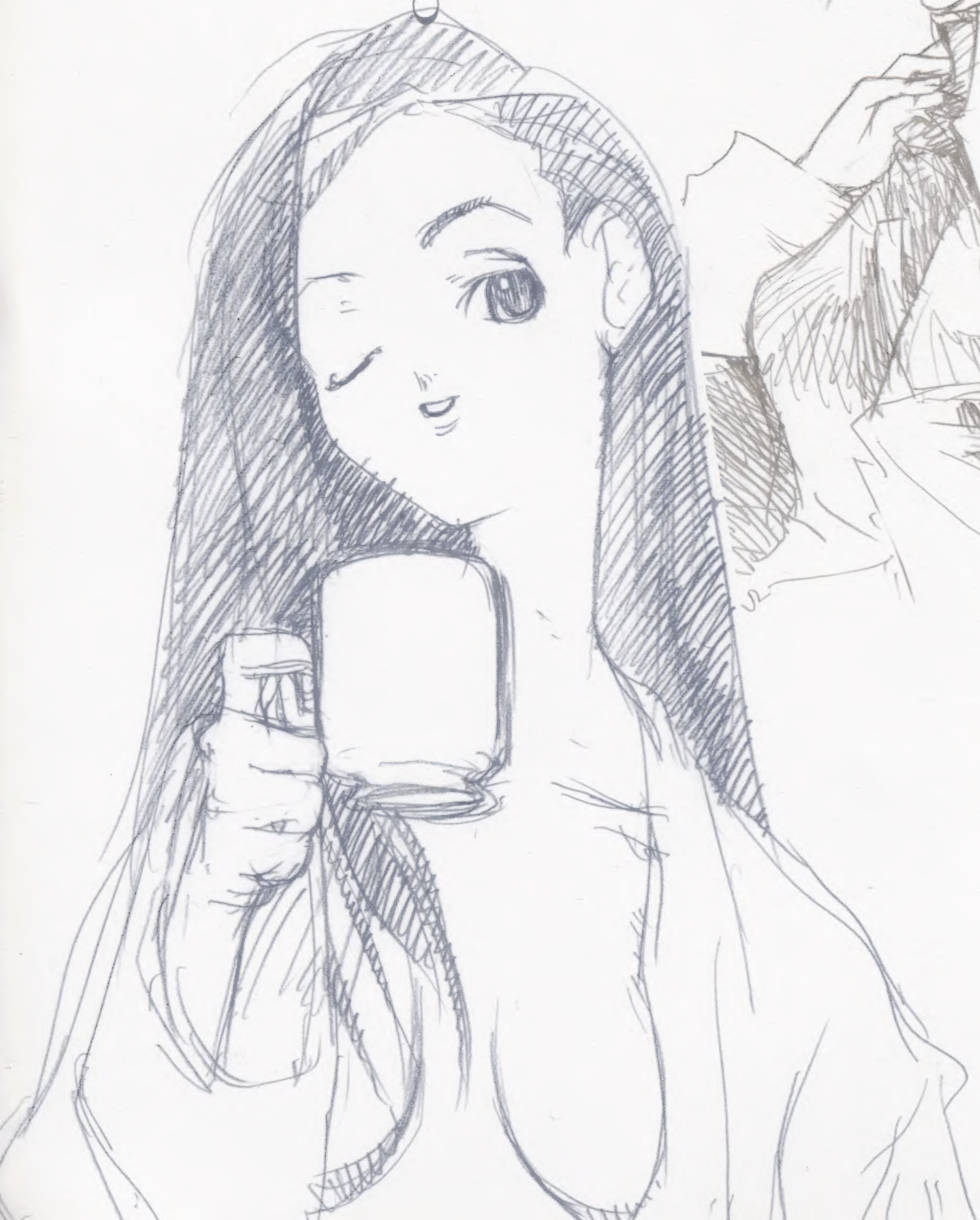

いちょうの舞う頃
AutumnColors



ポスターイラスト



ポスターイラスト



KYOKO



MAKOTO



CHIE



MIYAKO

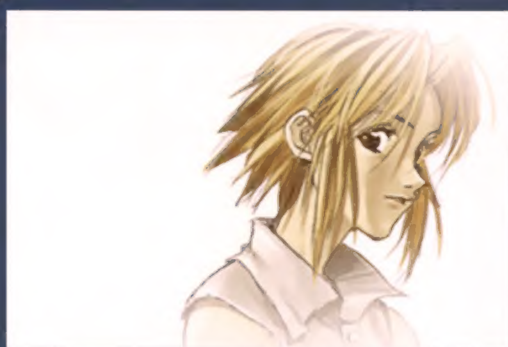
解説書イラスト

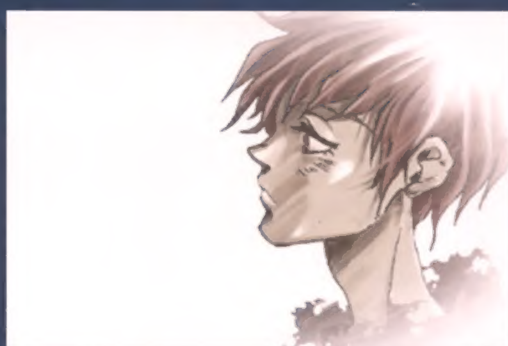


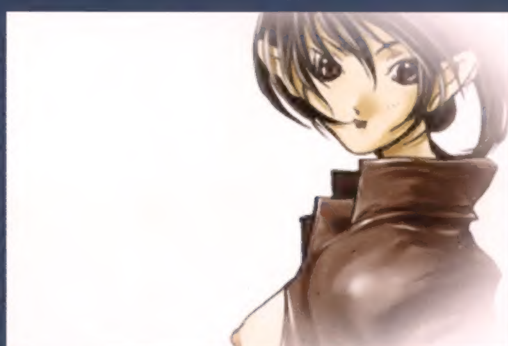
解説書イラスト／拾た

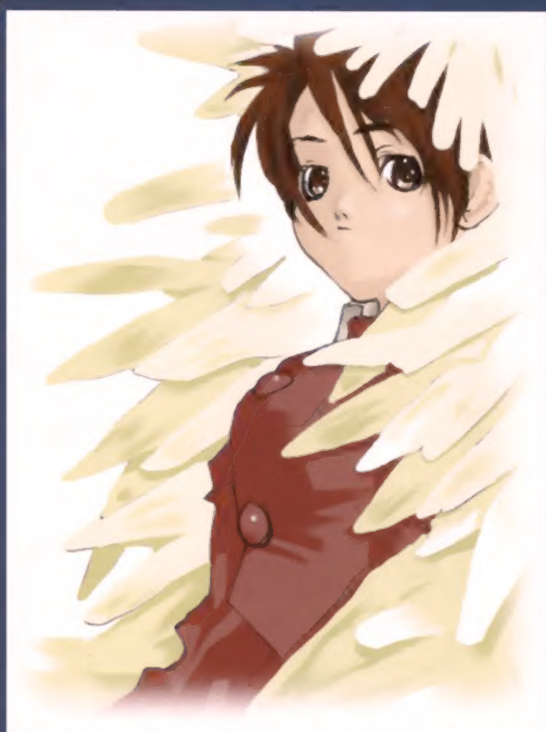
解説書イラスト／石居良徳













ホームページイラスト

CONTENTS

舞台は都心から電車を乗り継いで1時間くらいの場所にある、ローカルな雰囲気の漂う街「茜ヶ丘」。そこを流れる茜川は、秋になると茜の花が美しく咲き乱れることからその名がついた。主人公たちの通う学校はその名も「茜ヶ丘学院」。茜川のそばにあるのんびりとした校風の学校である。茜ヶ丘のもう一つの名物は、そこかしこにみられるいちょう並木。秋になり色付いたいちょうの葉がはらはらと舞い散る様は美しい別世界。毎年、大勢の見物人が訪れる。

本編の主人公、秋山悠介は高校生のくせに勉強もせずスポーツもせず、しかしこれといって趣味ももたない。はた目に見れば“しょーもないやつ”。しかし、彼と親しく接する人々にとっては“ほっとけないやつ”。彼と吉沢まこととは家が隣同志の幼なじみで、実の姉弟のように育った。やがて年頃になり、お互いが男と女であることに気づいた時、二人は戸惑いを覚える。早く大人になろうとする悠介、いつまでも子供でいたいまこと。傷付け合い、戸惑いながらも二人は大人になっていく。



上級生





「はい、お弁当」
「いらないっていってるだろうが、何回いったらわかるんだよ」
　むすっとした表情で答える俺。
「そんなこといって、いっつも食べてるじゃない」
「そりゃ、わざわざ作ってきたもの食べないってなると、俺がクラスで何言われるか」
「今日は、ゆうすけの好きな鳥そぼろご飯よ」
「はずかしいだろ、いい加減にやめろよな」
「そりゃ、悠介にお弁当を作ってくる人ができたらやめるけどね」
「・・・なんだよそれ」
「へへへ、それまでは私ので我慢しなさい」

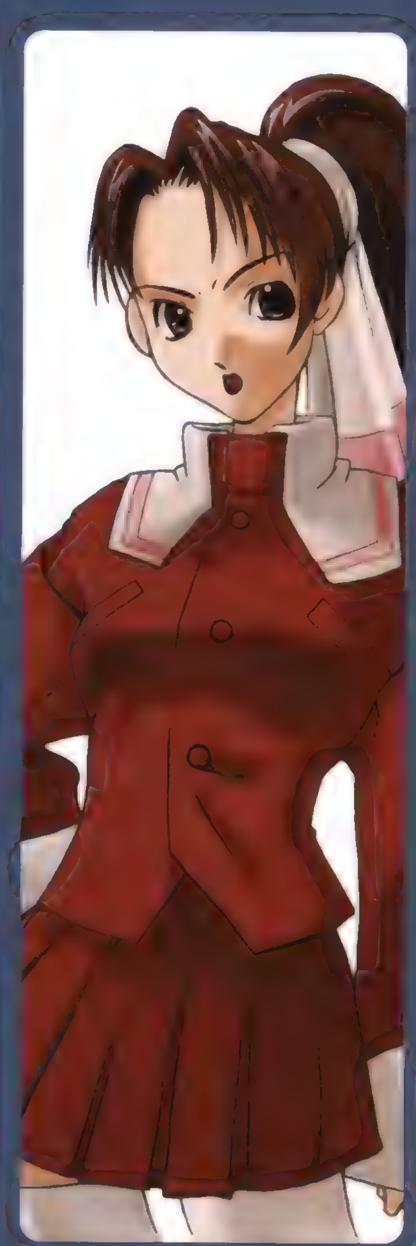
吉沢まこと

MAKOTO YOSHIZAWA

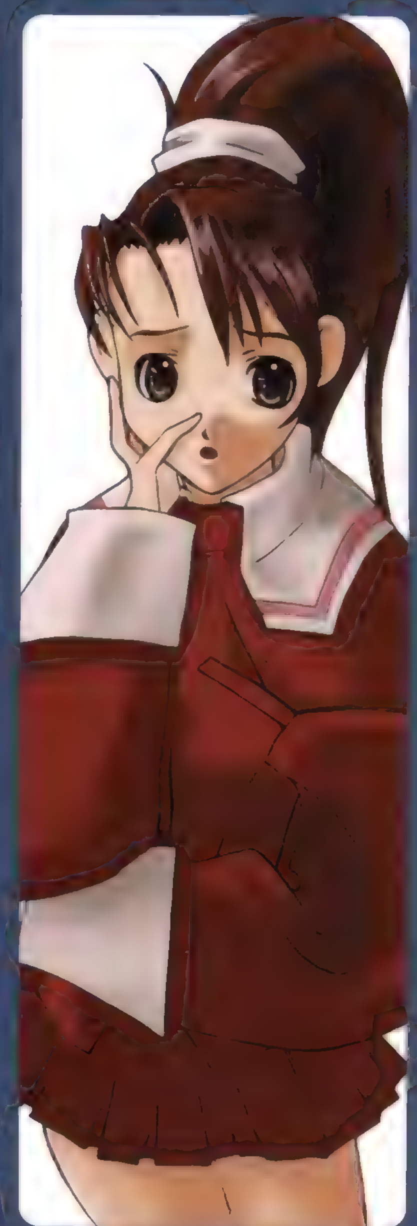
主人公の秋山悠介とは幼なじみだ ことの方が一つ年上の3年生。家か 士だったため、まるで実の姉弟のよう 育った。中学の頃からの習性で、まことは毎日悠介の教室まで弁当を届けにくる。だが、悠介はそれをあまり好ましくは思っていない。去年、生徒会長をしていたこともあり、校内ではちょっとした有名人。それでいて男女共に人気がある。両親は離婚していて、現在は父親と二人暮らし。そんな両親を見て育ったせいか、心の片隅では幸せな結婚に憧れている。

to









幼い頃から悠介のことを想い続けていたまこと。彼を弟のように扱うことで、自分の気持ちを隠してきた。自分はあくまで幼なじみと割り切っていた悠介だが、まことが見知らぬ男（大澤）と中庭で弁当を食べていることを目撃してからというもの、悠介の気持ちに変化が訪れる。そして次の日、突然まことから明日から弁当を作れないと言われ、ショックを受けた悠介は、別件でクラスへやってきた杏子にまことが弁当を作ってきてくれないことをもらすのであった。少しずつだが確実にまことへ対する気持ちが悠介の中で大きくなっていく。だが、悠介が自分の素直な気持ちに気づいたときには、時すでに遅くまことは……。

「困ったわねぇ。どうしたらいいのかしら・・・・・」
　心底困ってる様子で思案している。俺も困った。このままじゃ帰れない。すると、突然彼女が、
「そうだわ、一緒に帰りましょう。そうすれば一つの傘で二人とも帰れるでしょ」
　なんていう大胆な発想だろうか。って、確かにそうすればいいんだけど、勝典いわく相手は学院一の美人と言われている人だ。
「え、そりゃそうですけど。あの、いいんですか」
　当然気後れしてしまう。
「あなたさえよければね。私と一緒に帰ってくれる？」



綾瀬杏子
KYOKO AYASE

校内一の美人といえば、まっさきに名前があがる人物。その上、成績優秀、スポーツ万能とくれば、男子生徒の大半にとっては高嶺の花。一見、完璧に見える彼女だが、誰も知らないところで結構ドジる。3年生で、元ラクロス部に所属し、引退するまでは鬼キャプテンと恐れられていたが、美しさと気品ある振る舞いや時折見せる優しさからか、下級生の女の子ファン多し。当の本人は女の子にばかりもててもと少々不満のようだ。両親は芸術家で、現在はフランスに住んでいる。

KO











一人っ子の杏子は、悠介のような弟ができて大喜びだった。しかし、いつしか杏子の中で悠介を一人の男としてみる気持ちが芽生えていた。そしてまた悠介の杏子に対する気持ちも日に日に確実なものへと変わっていたのだ。そんなある日、悠介が風邪で寝込んでしまう。お見舞いにきた杏子に、自分のことをどう想っているのか質問する悠介。杏子からのその答えに気をよくした悠介は、杏子と出かけた快気祝いのデートで、自分の気持ちを素直に告白、強引に彼女の唇を奪う。うまくいくと思われた告白だったが、結果的には失敗に終わり、ショックを受ける悠介。ところが、杏子には悠介だけに隠していた秘密が実はあったのだ……。

「結婚しようよ」
「え？」
「そしたら僕たちは本当の家族になれるよ」
「・・・・けど、ゆうちゃん、同じクラスの
さおりちゃんと仲がいいでしょ」
「あ、あんなやつ関係ないよ」
「だったら証拠を見せてよ」
「・・・わかった。それじゃ、ちょっとだけ
目をつむって」
「うん」



「カップル特製、」
「ハート型お好み焼き！？」
「な、な、なに勘違いしてるんだよあのばばあ」
「そ、そ、そ、そ、そうよね。私たちがカップ
ルだなんて・・・」
「お、おいばばあ、間違ってるぞ！」





「カップル特製・・・」
「ハート型お好み焼き？」
「限りなくオーソドックスじゃないですね・・・おばちゃん、間違えたんじゃ」
「・・・そうでもないみたいよ。ほら、あれ」





「ラクロス部の方ですか？」
「ええ、そうだけど、どうしてそれを？」
「さっき、見てたんです、練習」
「そうなの。でもね、正直に言うと、元ラクロス部員ね。もう引退したから」

「・・・ぅすけ・・・そばにいるからね・・・」
「おい、まこと起きろ、学校遅れるぞ。おい」





「ほらほら、とっととノート出しなさい」
「で、今度のテスト範囲はどこなの」
「ここと、ここ」
「それだけ？」
「あと、ここも」
「よし、じゃあね・・・ふんふん、じゃあ、これとこれをまずやってみて」

「悠介の背中、おっきいね」
「やめよろな、気持ち悪い」
「いーじゃない。こうしていたいんだもん」
「勝手にしろ」







「お願い、いかないで！私、悠介を失いたくない。あなたのこと好きなのよ！！」
「ごめん、俺、まことのこと、そんなふうに考えられない・・・・」



「私不器用だから、手編みってわけにはいかないけど」
「ありがとう」
「どう？」
「うん、似合ってる」



「好きだ」
「ごめんなさい。私、あなたの気持ちに応えることができない・・・・」

「今日、父さん帰ってこないの」
「なぁ、」
「ん？」
「そっち、いってもいいか？」
「・・・うん」







「とりあえず一緒に来い」
「すまん、大澤。やっぱ、まことのことは譲れない。
埋め合わせはするからよ」





「あれ、どうしたんだろ。なんで泣いてるの、私」
「好きだ、まこと。誰よりも君のこと・・・」





「・・・・それでも好きなんだ。
どうしようもないよ」
「お願い・・・あなたのことしか
考えられないようにして」





Autumn Colors 32 いちょうの舞う頃







あの頃のことを振り返ると、時々、全て夢の中の出来事だったんじゃないかと思うことがある。
舞い散るいちょうに包まれた、幼かった二人の小さな小さな夢の世界のできごとだったのでは、と。

そして、その夢は、今もまだ続いている・・・・。



・・・・こうして手紙を書いていても、遠く離れた先輩のもとに本当に想いが届くのか心配です。
あの日のように、この想いが突然消えてしまうんじゃないかと不安が募るばかりです。
この手で先輩を抱きしめたい。そうしないと、もう駄目になりそうで・・・。
だから、今度会いに行きます。フランスへ、あなたのもとへ・・・。

追伸　この手紙が着く頃には、もうすぐそばにいるかも・・・・。



Autumn Colors 35 いちょうの舞う頃

STAFF MESSAGEI I

●キャラクターデザイン・原画担当：わがすりあ狂介

どうもこんにちは、『いちょうの舞う頃』のキャラクターデザイン、原画を担当したわがすりあです。

今見ると恥ずかしくて顔から火が出そうな絵ばかりですが、僕自身始めての仕事で慣れないながらも頑張ったつもりです。

僕的にはキャラクター、というかゲーム全体をもっと明るくした方が良かったかな、とは思ってますがシナリオの意向、グラフィッカーとの兼ね合いもあってこれからの課題かな、という感じです。

恋愛シナリオというのも僕にとっては畑違いな感じの物でしたので結構苦労しました。苦笑いしか出来ないですね（笑）。研究課題というか、これからもっとこの分野も勉強しないといけないなー。

まことに関してはポニーテール、杏子はワンレングスということもあって楽にデザイン出来たのですが、苦労したのがみやこ、ちえちゃん。この二人はイメージもなかなか掴めず、デザイン自体があやふやで原画を描きながらこんなキャラクターだったっけ？と自問しながら描いてました（汗）。もっと可愛く描いてやりたかったですね（泣）。

●シナリオ、企画担当：林 ふみと

“本当にいい娘たちです。どうか幸せにしてやってください”

それは、ついに開発が終わってしまい、もうこれ以上『いちょうの舞う頃』の物語を書くことができないのだと実感したとき、心に浮かんだ言葉でした。そして、この物語を手にしてくれた人々へのシナリオライターとしての最後のお願いでもあります。

このゲームの開発を始めて約半年間、彼女たちのことでずっと悩み続けてきました。「どうすれば面白くなるんだろう」「どうすれば感動的な物語になるんだろう」最初そんな風に悩んでいたものが、いつのまにか「この娘の想いはどうすれば主人公に届くのだろうか」「二人が本当に幸せになるにはどうすればいいんだろうか」そんな悩みに変わっていました。その頃からです。この物語が、僕の手によってではなく、彼女たち自身によって綴られていくようになったのは。

ですから、物語後半はシナリオを書くのではなく、まさしく彼女たちとのコミュニケーションでした。千枝とみやこのやりとりは見ていて楽しかったし、杏子のジレンマや、まことと主人公のすれ違いは、もどかしくて胸が苦しくなりました。このゲームをプレイする人が、僕と同じように楽しみ感動してくれればと願わずにはいられません。

この『いちょうの舞う頃』は僕にとってもTypesにとってもデビュー作となります。今となっては、僕のような素人まがいの新人のシナリオを、素晴らしい絵や音楽で精一杯盛り上げてくださったスタッフのみなさまへの感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして何よりも『いちょうの舞う頃』を買ってくださったみなさま、本当にありがとうございました。もし再び会う機会があるなら、その時さらなる感動と喜びをお届けします。

次回作への案を固めつつ、今はまだ、舞い散るいちょうに身を任せたいと思います。



※このイラストはボツ設定です。

下級生



miya

「ん？君は・・・」
　この娘はよくいちょう並木のところで見かけたあの眼鏡っ娘じゃないか。なんでこんなところで泣いているんだろう。
　眼鏡っ娘は俺の顔を見て目を白黒させて驚いている。向こうも俺の顔ぐらい知っていたんだろう。
「どうしたの、大丈夫？」
　俺は、もう一度できるだけ優しく聞いた。
「え・・・えぇ・・」
　驚いてあたふたしている。
「あ、あの、大丈夫です」
　眼鏡っ娘は、やっとそれだけ言った。
「そうか、それならいいんだけど」



若月みやこ
MIYAKO WAKATSUKI

1年生。とにかく地味な眼鏡っ娘で、いつもおどおどしている。中学で千枝と知り合うまでは、常に孤独を抱えていた。父親が厳しく、親の言いなりに生きる毎日。本当はもっと自由におしゃれをしたり、みんなとカラオケにいきたいと思っている。だが、その一歩を踏み出す勇気が彼女にはなく、何でもすぐに諦めてしまう。いつかは変わりたい、千枝のような強い女の子になりたいと願う毎日。趣味は読書で、悠介の母親・茜音月子（ペンネーム）のファンでもあったのだ。

KO









いつも陰から悠介のことを見続けていたみやこ。ある日、偶然にも悠介から元気づけられたことがきっかけとなり、勇気を出して悠介に告白し、彼女となる。しかし、引込み思案のみやこと悠介の恋は、なかなか進展せず、まわりの特に千枝をやきもきさせた。だが、一緒に弁当を食べたり、手をつないだりと少しずつ彼氏彼女らしくなっていく二人。ところが、先日行われた試験結果が悪かったためか、最近みやこの元気がない。元気づけようと気晴らしへ誘う悠介だが、逆にそれが仇となってしまった。デートの日、約束の場所にみやこが現れない。彼女を心配した悠介が、みやこの家に電話をするとみやこの父親が出て……。

Chi

“もしもし、悠介先輩？あたし、みやこの友達の千枝です”
「え、ああ、松山さん？」
　若月さんのお尻を触った変な娘だ。いったい何の用だろうか。
“私ね、今学校にいるの。それでね、部活が終わる頃に学校に来て”
「え、なんで俺が？」
“なによ、いう事きかないとみやことうまくいかなくなるわよ”
「どういう意味だよ」
“部活昼過ぎに終わるから、それくらいになったら来てね。下駄箱の前で待ってるから”
「え、おい、」
“じゃあね・・・・。ガチャ、ツーツーツー”
「・・・・」



松山千枝

CHIE MATSUYAMA

ラクロス部に所属する1年生、実力はある方で、現在、レギュラーの座を手に入れるため部活に励んでいる。中学時代、いつもうじうじおどおどしているみやこが気になり放っておけず、おせっかいを焼くうちにいつの間にか親友になっていた。気が強く頑固者で思い込みも激しいが、本当は優しくて弟思いの女の子。何事にも一途で一生懸命、それでいて負けず嫌い。他人に弱みを見せるのが嫌で、辛いことや悩みがあっても他人に相談できずいつも一人で背負込んでしまう。













はじめはみやこと悠介の恋の手助けをするはずだった。ところが、悠介の意外な一面に触れるうちに、千枝はどんどん彼のことが気になりはじめる。親友・みやこの彼に恋をしてしまった千枝は、自分の気持ちに気づき悩む。そして悠介も千枝の優しさや一途さに触れていくうち、みやこよりも千枝の方が気になりはじめていた。そんなある日、杏子と千枝の買い物に同行させられた悠介は、ラクロスでレギュラーをとることを条件として千枝に指輪を買ってやる。無事、レギュラーを獲得した千枝は、試合に悠介を呼ぶが、その日はみやことのデートの約束の日でもあったのだ。当日、みやことの約束の場所まで悠介はやってくるが……。







「先輩、これ、お弁当です・・・」
「ありがとう」
「あの、開けてもいい?」
「は、はい・・・どうぞ」





「私、大切なものを沢山無くしちゃったんだね・・・」
「いつまでもうじうじして！そんな千枝ちゃんみたくないよ！！」
「・・・みやこ」



「こんなところで何してるの？」
「え、ああ、弟たちと散歩」
「へぇ、4人兄弟か。知らなかった」



「私・・・駄目だった」
「え？」
「・・・せっかく悠介先輩が信じて
くれたのに、私できなかった」







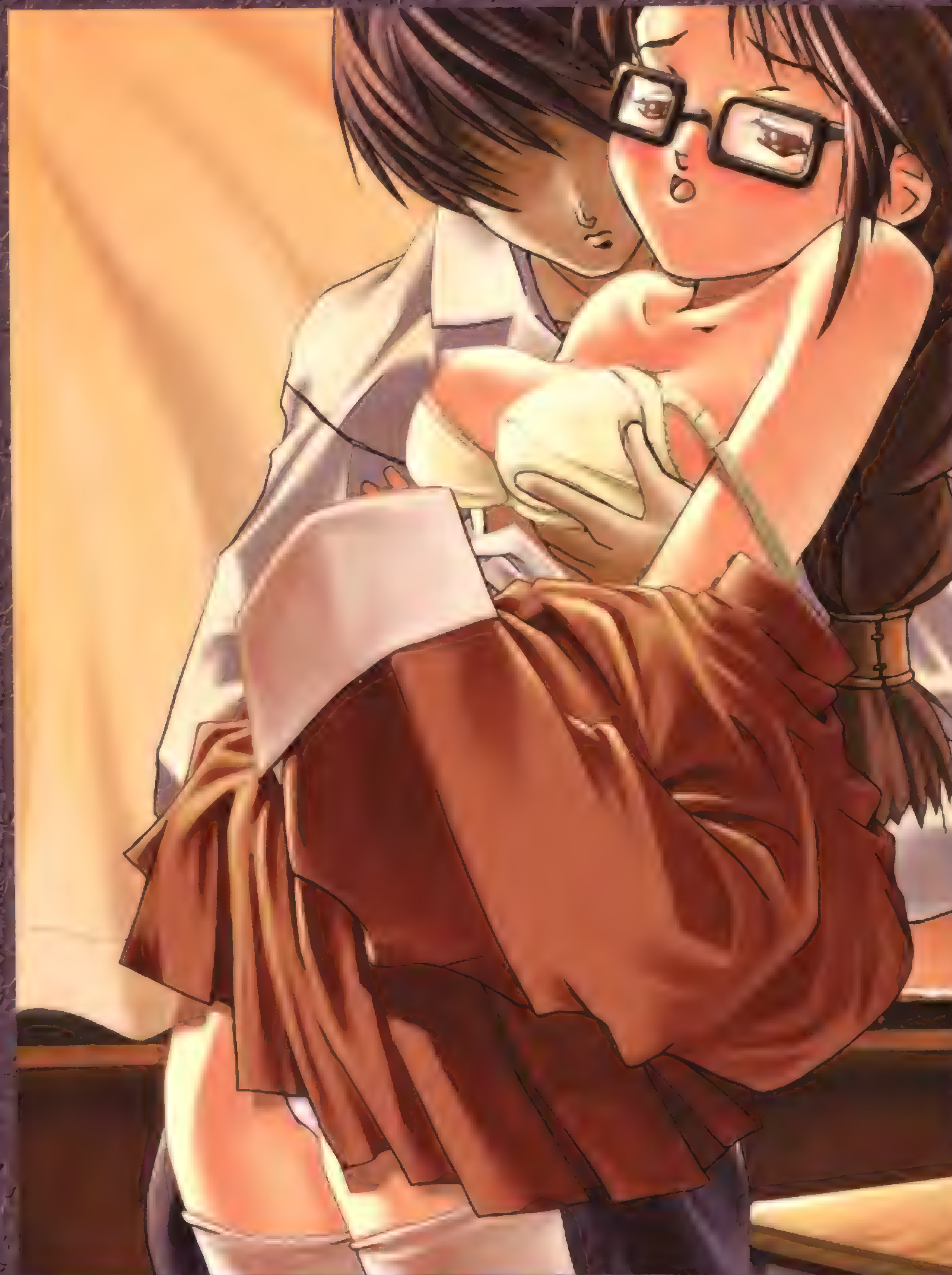
「ど、どうしたの」
「先輩・・・会いたかった」
「とにかく中へ」
「こんなに冷たくなって・・・」



「私、早く先輩と一つになりたい。お父さん
なんて手の届かないずっと遠くへ・・・」
「みやこちゃん・・・」







「お願いします、先輩」
「みやこちゃん・・・」
「んぅ、」









「・・・だめよ」
「好きだよ、千枝」
「ねぇ」
「ひゃっ！」
「だ、だめぇ、んぐ」
「んぅ.」







「結婚しよう」
ぽろぽろと零れる涙を必死に拭いながら、みやこはにっこり微笑んだ。
『・・・うん！』
昔に比べてずいぶんと強くなったみやこ。でも、泣き虫だけは今でも直ってないようだ。





みんなの前で恥ずかしげもなく力いっぱい俺を抱きしめる千枝ちゃん。
一途で真っ直ぐでちょっぴり頑固で、小さな体でいつも一生懸命。
「おめでとう、千枝ちゃん」
「へへ、ありがとう」
今の彼女を強くしているのは、きっとこの素直さなんだろうと思う。
俺はそんな千枝ちゃんをこれからも抱きしめられたらいい、それだけでいいと思った。

STAFF MESSAGEI II

●サウンド・効果音：西野 尚利

『いちょうの舞う頃』(以下いちょう）の音楽の制作はある意味、実験のくりかえしでした。いろいろと演出上のことを深く考えてみたり、初めて歌ものを取り入れてみたりしました。シナリオライターからの要求はこれといってなく、ただ『下品なものは避けろ』ということでした。つまり露骨なポップスはさけて情緒のある音楽にしてほしいとのことでした。シナリオライターの林氏は音楽に深い感心と理解をもっておられ彼の要求や意見は信頼できるものであったのが救いでした。

当初は各キャラクターテーマ曲等を廃止して、シーンごとに曲を付けるという方針でしたが、制作が進行していくにつれてゲームにおける音楽が単に演出上でなくBGMとしての作用をもっていることに気が付き、あらためて音楽必要性を重視し、ゲーム中を隅々まで音楽でうめつくせるように努力しました。

最も重要視したのがメロディの有無でした。これはメロディが主張することでゲームの流れを壊してしまう恐れがあるからです。そうするべきところと、そうでないところを想定して浮遊感、リズム感などと分けて曲を作りました。メロディというものはそこへ意識を集中させてしまうので、ゲーム上場所を選ばないと演出効果がありません。歌物をエンディングにもってきたのも、そのひとつです。

今回大変な作業のなかで、最も助かったことはやはり林氏のシナリオでしょう。彼のシナリオこそ唯一にして最大のインスピレーション源であり、良い作品を作ることにたずさわることができた支えでもありました。

●開発リーダー、グラフィック担当：石居 良徳

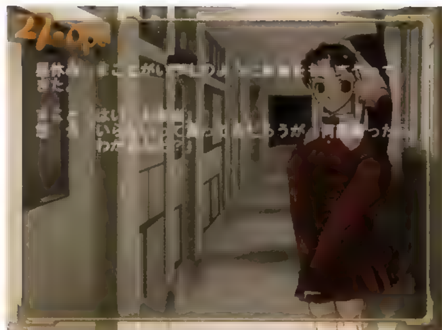
「いちょうの舞う頃」の開発を終え、ユーザーサポート、そして次期プロジェクトと忙しい毎日を送っています。

今だから言えることなんですが、僕をはじめとして開発スタッフはズブの素人ばかり。初めて出会ったスタッフ、誰が何をするのか、何をするにも何を始めるのも迷ってばかり。そんな混沌の中で「いちょうの舞う頃」の開発はスタートしました。与えられた時間は半年。そのような状況のまま2ヶ月を消費していきました。

何より僕たちが出来ること、そしてそれをお客様に楽しんでいただくこと、これが命題でした。「いちょう」が学園モノであり、ヒロインが4人に限定されたのは、そういう部分から派生した設定なのです。4人という決して多くない数字に集中することにより、密度の濃いストーリーを構築する事に主眼が置かれました。作画に関しても、できる範囲をしっかりこなす事を目標にしました。

開発が軌道にのり、スタッフの間に信頼関係が生まれていくにつれ、自分たちの所属する「Types」に、自分たちの思うブランドイメージが出来始めていきました。その意識が、シナリオ、グラフィック、そして音楽に反映されています。「いちょうの舞う頃」には、そんな作り手側の気持ちが一杯詰まっています。あとはユーザーの皆様がどう感じ取ってくださるか、本当の意味での一体感はそこに尽きるでしょう。「いちょうの舞う頃」の最後のピースは貴方の気持ちです。

既にプレイなさった方も多いと思います。いかがだったでしょう？また、この本を読んで興味をもたれた方、是非「いちょうの舞う頃」を手にとってみてください。



※この画面はボツ設定です。

その他



tom

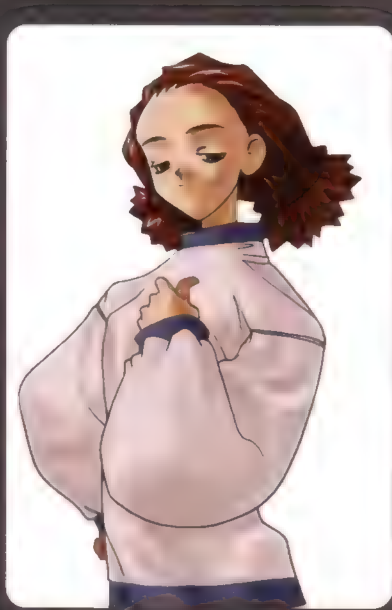
「・・・・」
「いったい今朝、俺が何をいったわけ？」
「だから、その・・・・愛してるぞー、友美ー、って・・・」
“愛してるぞー、友美ー”の部分が、やけに小声で抑揚がない。
「はぁ？」
　そんなこと言った覚えはないんだが、しかし、愛されてると分かって怒るとは。情けない気分になってきた。つまり友美は俺に愛されるのがそんなに嫌なんだろうか。兄妹なのに。
「大丈夫。俺はおまえを愛していないから」
「へ？」

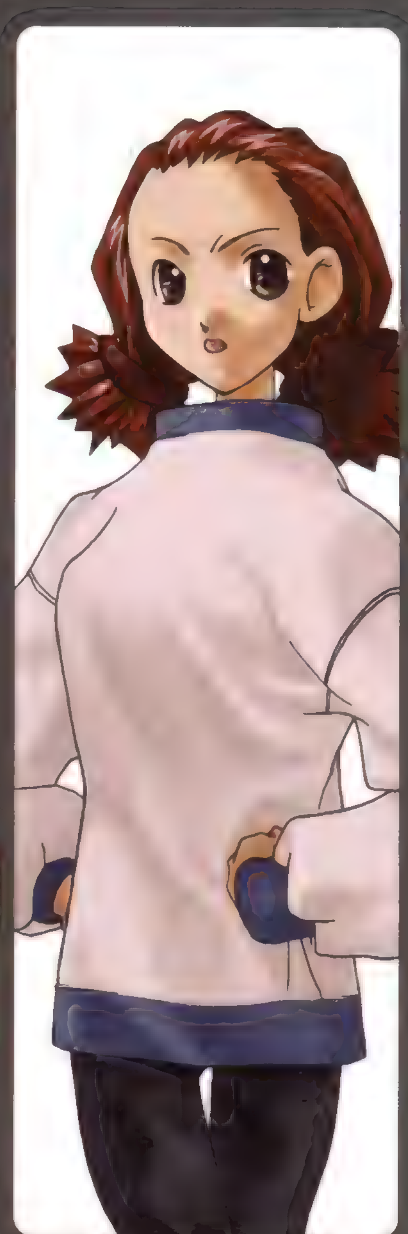


秋山友美
TOMOMI AKIYAMA

悠介の妹。毎朝寝坊するぐうたらな兄を起こしにくる元気でしっかりした中学3年生の女の子。兄の前では大人ぶったりもするが、まだまだ子供で、実は兄に甘えたいところもある。他の家の兄妹と比べても仲はいいほう。父親は友美が物心つく前に他界しており、知らず知らずの間に兄に父親の面影を見るようになった。また、なんでもまことの真似をしたがるが、料理に関してはからっきし駄目。

omi









兄の悠介とは違って、恋愛に関することには鋭い方。悠介の恋愛をあれこれ詮索し、誰がアニキの彼女なの？などと簡単に口にする。また、女の子の気持ちがいまいちよくわからないという悠介から、たまに恋の相談を持ちかけられることがある。自分の恋愛に対してはうぶなようで、好きな人がいるようだが、まだ片思いらしい。姉のように慕うまことにはその彼のことを話しているらしく、まことが食事を作りにきたとき話題になることがたまにある。中学生といえば、恋愛に一番興味のあるお年頃で、この手の話題が大好き。そのため友美の部屋には、恋愛に関する雑誌が散乱しているもようだ。

Katsunori

「なんで怒ったんだろう。俺はさ、山本にまことを紹介してくれって頼まれたからさ、」
「おまえ、まことちゃんを紹介しようとしたのか？」
「いや、頼んだんだけど、断られた。なんでだろう。男紹介されるのって、そんなに嫌なことなのかな」
「・・・さぁな。けどまぁ、そこまで怒るんだったら、何か他に理由があるんだぜ、きっと」
「他にって？」
「たとえばだな、おまえに紹介されるのが嫌だったとか」
「・・・なんで？」
「はぁ、おまえってとことん鈍感だよな。それくらい自分で考えろよ」
「・・・・」



川西勝典

KATSUNORI KAWANISHI

背が高くがっしりとした体格で、バスケットボール部のキャプテンを務める。友情に篤く自分の恋愛よりも親友を選んでしまうタイプで、頭を使うよりも体を動かすのが得意。それでいて好物はジャムパンという今時古風なやつ。悠介とは普段、悪態をついたりつかれたりしているが、いざというときは一番の頼れる親友。中学1年で出会った時、悠介と勝典は互いに仲が悪かった。だが、バスケの練習に励み、2年で共にレギュラーとなった頃にはすっかり仲良くなっていた。

atsuko

「ふふ・・・悠介、あんた日に日に父さんに似てくるわね。
目元なんてもうそっくりよ」

秋山温子

ATSUKO AKIYAMA



悠介の母親。悠介がまだ幼かった頃、事故で夫を亡くし、それ以来女手一つで悠介と友美を育てた。現在小説家・茜音月子としてＯＬ向けエッセイや中高生向けの青春小説を執筆。気風がよく、人当たりがいいため仕事仲間には大層慕われている。そこそこ人気もあり悠介の通う茜ヶ丘学院の図書館にも彼女の作品は置かれている。みやこも彼女の大ファン。デビュー作は「しかたがないよ、青春だもん」で中高生向けの恋愛小説。最新作は「アンチテーゼから始めよう！」だ。

ohsawa



「けど、その、二人は付き合ってるんだろ」

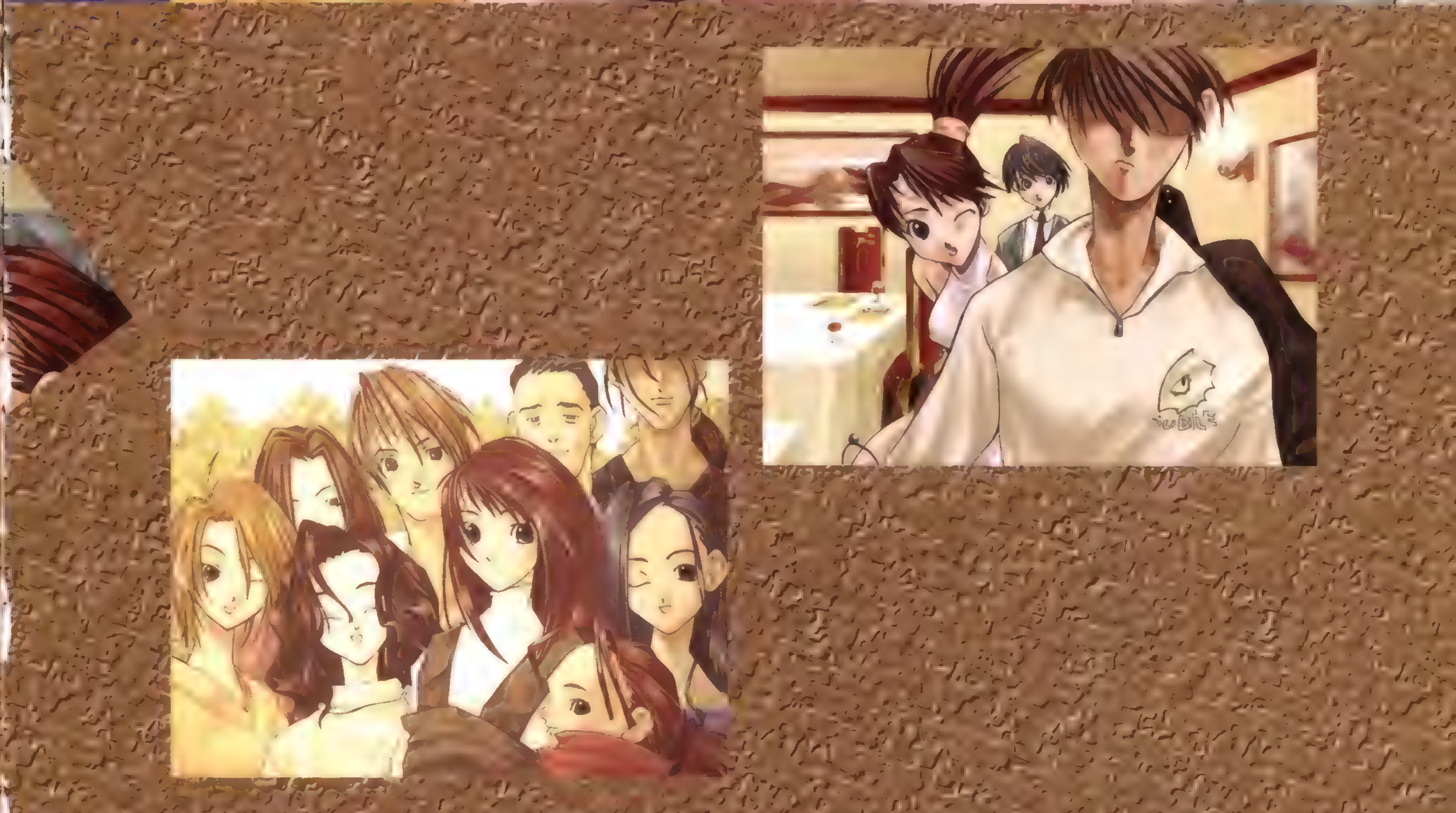
大澤

OHSAWA

悠介と同じ２年生。現美術部の部長で、自分以外に男子部員がいなく、他の女子部員たちとうまくいってないことから、去年まで美術部の部長を務めたまことにそのことを相談しにきていた。大澤は悠介とまことが付き合っていると思っていたが､悠介の口からまこととの関係を単なる幼なじみと聞き、まことに対する秘めた想いを悠介にぶちまける。そしてその後、素直な気持ちをまことに告白。まことの誕生日である11月20日には２人で食事に出かける約束になっていた…。

「君が、秋山君かね」
「はい」
「君のおかげで、うちの娘が迷惑しているんだ。もう二度と会わないでくれといったはずだが」











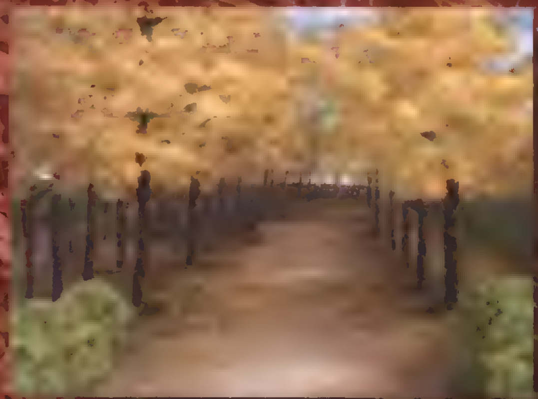
















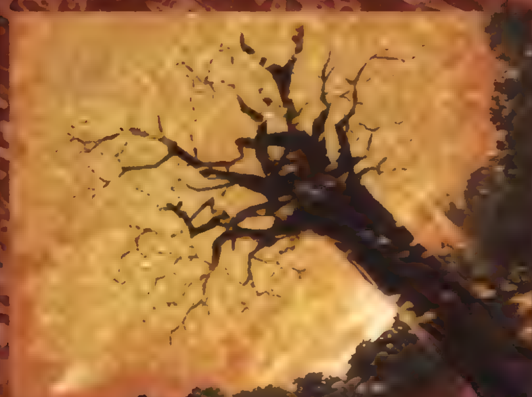




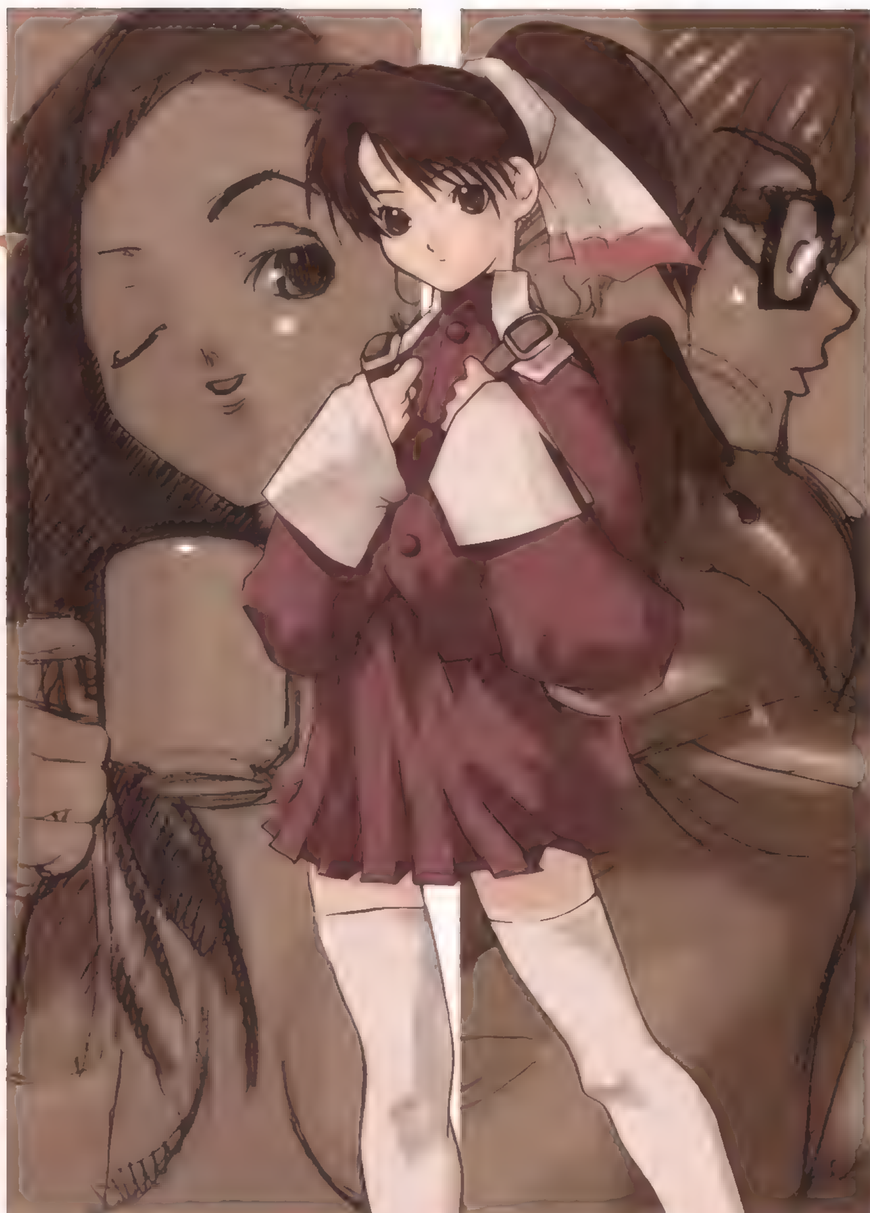








autumn color





kyosuke wagasuria

Pure girl 11月号（初出）／わがすりあ狂介

ハッピーエンドリプレイ



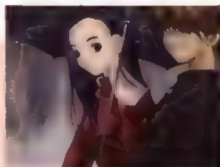



吉沢まこと

一つ年上の世話好きな幼なじみ

10/9
まことに男を紹介しようとして、俺は鞄で顔を殴られた。かっちゃんからもまたまことと喧嘩したのかと呆れられる。夜寝る前、かっちゃんから言われた言葉を思い出す。俺にとってまこととは？そういえば、学校からの帰り道、いちょうの並木道で最近よく見る眼鏡をかけた地味な娘と目があった。いつも誰かを待っているのだろうか？

10/10
昨日のことを怒りながら、まことは今日も俺のところへ弁当を届けにきた。帰り道、かっちゃんから、まことと仲直りしたのかと聞かれる。その日俺は、まことの怒った理由を考えながら帰宅する。並木道でまた眼鏡っ娘と会った。そして今日もまた目があってしまった。



10/15
かっちゃんと一緒に帰っていると、突然雲行きが怪しくなってきた。一雨きそうなので、学校まで傘をとりに帰る。すると学院一の美人と言われる杏子先輩が、下駄箱の前で帰れずに困っていた。目が合ってしまい、俺は自分の傘を差し出す。ところが、先輩からの提案で一緒の傘に入って帰ることになってしまった。

10/16
学校にきてみると、昨日、先輩と一緒に帰ったことがクラスに広まっていた。見ていたやつがいるらしい。昼休み、先輩が昨日のお礼といって俺のクラスに現れ、手作りクッキーをくれた。帰り道、そのクッキーをかっちゃんと食べた。おいしかった。

10/21
昼休み、俺が寝ているといつものように弁当が置かれた。まことだなっと思って顔をあげるとそこには杏子先輩がいた。俺のために弁当を作ってきたらしい。ちょうどそのとき、まことも弁当を持ってやってきた。しかたなく二人の弁当を食べることにした。そうしたら、どちらの弁当がうまいか聞かれ、俺はまことの弁当と答えてしまった。



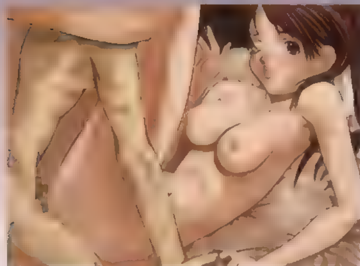
10/22
朝、下駄箱で杏子先輩にあって、昨日の弁当のことを謝った。昼、まことが弁当を持って現れたが、いつもより上機嫌で感じも違っていた。



11/4
今日は、珍しくまことの弁当を食べてやろうという気分になった。だが、30分経ってもまことは現れない。その日、まことは中庭で誰か知らない男と芝生で並んで弁当を食べていた。俺はそいつがどこの誰だか気になった。

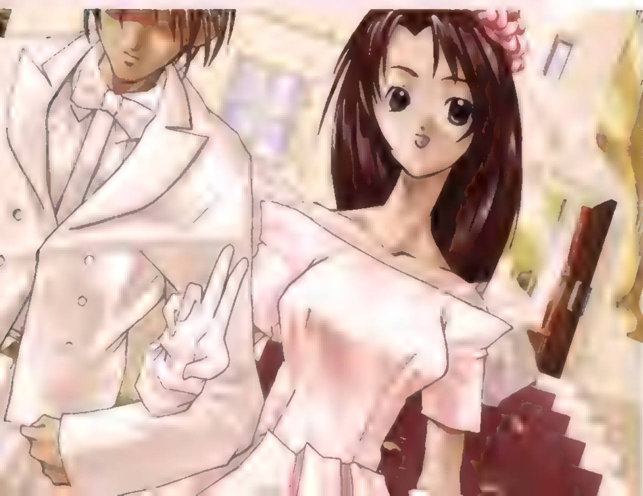
11/5
昼休み、まことが弁当を持って現れた。だが、明日から少しの間、弁当を作れないと言われた。理由を聞くが、まことは「・・・部活の方で色々あって」としか答えなかった。

11/6
昼休みになったがまことは本当にこなかった。そのときちょうど別件で俺のクラスまでやってきた杏子先輩から声をかけられた。つい、まことが弁当を作ってきてくれなくなったことを杏子先輩に話してしまう。



11/11
夜、だいぶ気分もよくなったので、まことが作った食事を食べた。その晩、俺は夢を見た。幼い日の夢。その夢の中で俺は何度もまことの名前を呼んだ……。

11/12
朝、目を覚ますと、まことがベットの脇でうつぶせになるようにして寝息をたてていた。またその手は、しっかりと俺の手を握っていた。俺の右手にはまことの温もりが残った。まことは今日も学校帰りに俺の様子をみにきた。汗をかいたため服を着替えようとする俺。下半身パンツ一枚の状態のとき、まことが部屋に入ってきた。焦った俺はパジャマのズボンをはこうとするが、足元がふらつきそのまままことの上に重なるようにして倒れた。間近に見るまことの顔、そのままキスをしようとするが、タイミング悪く友美が部屋に入ってきて、変態よばわりされた。





11/17
怒っているまことに、俺は謝りにいった。しかし、その横には大澤がいた。放課後、俺は大澤に呼び出され、屋上へいった。そこで、大澤からまこととの関係を問われ、付き合っていないのなら、まことに告白してもいいかい？と聞かれた。俺はまことのことをどう想っているのか自分の気持ちに悩んだ。

11/18
まことに対する気持ちに悩んでいた俺は、杏子先輩に相談することにした。杏子先輩は「女の子のハートをつかむには・・・指輪よ、指輪！」といって、俺に指輪を買わせる。そんなものなのだろうかと、半信半疑な俺。

10/11
並木道でよく会う眼鏡っ娘が河原で泣いていた。どうしたんだろう？俺は声をかけて元気づけてやることにした。



10/13


休み時間、一年生らしい女の子が俺の前に現れて、ラブレターを置いていった。まことは今日も俺の分の弁当を持って教室にやってきた。いつものように、まこととはなんとなく仲直りしていた。帰り道、かっちゃんにラブレターのことを聞かれた。その日の夜、まことが晩御飯を作りにうちへきた。

10/14
昨日もらったラブレターを読んだ。この前元気づけた眼鏡っ娘からのものだった。返事をどうしようか放課後まで考えることにした。まことは仲良しの友達のまきから、俺がラブレターをもらったことを聞いたらしい。そして、まことからその娘にはちゃんと返事をしなさいと言われた。結局、俺は眼鏡っ娘とは付き合わないことにした。

10/18
かーちゃんに頼まれて明日、まことと二人切りで買い物に行くことになった。

10/19
まことと3時に駅前で待ち合わせをして、買い物へいく。その帰り道、並木道で手をつないで歩く幸せそうな家族を見かけた。それを見てまことは「私も早く赤ちゃんほしいなぁ・・・」と言った。俺はできるだけ平静を装って「・・・そういうのもいいかもな」と答えた。



10/20
まことの弁当をエスケープするため、俺はパンを買って屋上に向かった。そこで、一人で弁当を食べる杏子先輩と出会う。だが、その後、まことに見つかって弁当をもらうことになる。



10/23
授業中寝ていた罰として、教材を一人で片付けさせられる。図書室へ教材を置きにいくとまことがいた。つい声をかけた。

10/25


放課後、まことに捕まり図書室で一緒に勉強をすることになった。観念して勉強を始めると杏子先輩も勉強をしにやってきた。その後、俺はまことと杏子先輩に挟まれて勉強することになった。まことと杏子先輩が俺のテスト範囲についてもめはじめた。どちらが正しか聞かれ、俺はまことと答えた。

10/28
この前まことに教えてもらったテスト範囲から問題が出題された。帰りに偶然にも下駄箱でまことと合った。そこで、勉強を見てもらったときのお礼を言った。

11/1
帰り、下駄箱でまこととでくわす。友美の手料理は食べたくなかったので、そのまままこととお好み焼きを食べにいった。



11/7
昼休み、俺がぽつんと座っていると杏子先輩が現れて、弁当をくれた。俺は断ろうとするが、強引に手渡される。俺が杏子先輩の弁当を食べていると、タイミング悪くまことが現れた。だが、何も言わずに去っていった。家に帰ると、誰かが家の前にいた。まことと大澤だった。何をしていたのかまことに聞くが、悠介には関係ないと言われた。

11/8


家に帰ろうとしたら下駄箱でまことに会う。家が隣どうしなため、一緒に帰るような感じになりながらも、一言も口を聞かない。そのうち、つまらないことでまことと口論が始まり、まことを怒らしてしまう。夜、本来ならまことが食事を作りにくるはずだったが、こない。友美に言われて、買い出しにいくことになり、スーパーで杏子先輩と会う。そしてその日は、杏子先輩の手料理をご馳走になった。

11/10
熱を出した俺のところへ杏子先輩がお見舞いにやってきた。その後、まこともやってきた。帰り間際、杏子先輩が「最初から入り込む余地なんてなかったみたいね。がんばって」と言って帰っていった。





11/14
まことがまた俺のために弁当を作ってきた。なぜかまことは俺に弁当を渡すと、モジモジしながら帰っていった。帰り、下駄箱でまことと会って一緒に帰ることになった。まことの提案で遠回りをして帰ることになったのだが、ちょっとしたことからまことと言い争いになり、まことは怒ってその場から走り去ってしまった。ただ一人残された俺はひたすら自己嫌悪に陥った。



11/19
まことにいつ指輪を渡そうか考えながら帰宅すると、偶然、家の前でまことと会った。ところがまことは、大澤から告白された後だった。

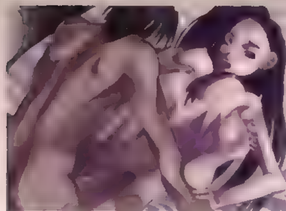
11/20
ショックで何も手につかず、学校から帰ってきて部屋でボーッとしているとかっちゃんがやってきた。自分のまことに対する気持ちを問われ、まことが俺のことを好きだったことを聞かされる。そのとき俺は何かを思い出しかけた。友美を呼び、いつもまことが身に付けている石のことを尋ねた。そして全てを思い出したのだ。思い出の公園へ向かい、いちょうの根元に埋めたビンから一枚の紙切れと緑の石のかけらを見つけ、俺は急いでまことの家へ向かう。だが、まことは大澤と出かけた後だった。俺がやりきれない想いでいると、友美がまことたちの居場所を教えてくれた。俺は二人がいる店へすぐさま向かい、まことをさらう。そして、素直な気持ちをまことに告白した……。



綾瀬杏子

学院一の美人と名高い…



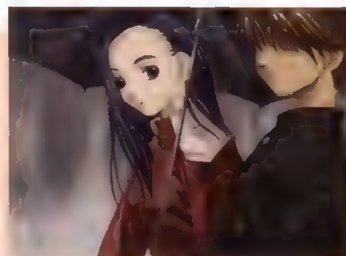




10/9
まことに男を紹介しようとして、俺は鞄で顔を殴られた。かっちゃんからもまたまことと喧嘩したのかと呆れられる。夜寝る前、かっちゃんから言われた言葉を思い出す。俺にとってまこととは？そういえば、学校からの帰り道、いちょうの並木道で最近よく見る眼鏡をかけた地味な娘と目があった。いつも誰かを待っているのだろうか？

10/10
昨日のことを怒りながら、まことは今日も俺のところへ弁当を届けにきた。帰り道、かっちゃんから、まことと仲直りしたのかと聞かれる。その日俺は、まことの怒った理由を考えながら帰宅する。並木道でまた眼鏡っ娘と会った。そして今日もまた目があってしまった。

10/15
なぜか、学院一の美人と言われる杏子先輩と一緒の傘に入って帰ることになった。その日は杏子先輩の意外な一面がわかり、俺の中で勝手に作っていたイメージが崩れていった。不意に先輩から「私って魅力ないのかなぁ」と聞かれたので、俺は「そんなことないです。凄く魅力的です」と答えた。それからは打ち解けたように先輩と色々な話をしながら帰った。



10/21
昼休み、俺が寝ているといつものように弁当が置かれた。まことだなっと思って顔をあげるとそこには杏子先輩がいた。俺のために弁当を作ってきたらしい。ちょうどそのとき、まことも弁当を持ってやってきた。けっきょく俺は杏子先輩の弁当しか食べなかった。帰り道、かっちゃんからまことと何かあったのか聞かれた。



10/23
授業中寝ていた罰として、教材を一人で片付けさせられる。図書室へ教材を置きにいくと杏子先輩と後輩の千枝ちゃんに会った。二人はまるで仲の良い姉妹みたいだった。



11/3
夜、友美の料理を食べずに杏子先輩とお好み焼きを食べにいったことを、友美に謝った。

11/4
家に忘れた体操服をまことが届けてくれた。そのとき千枝ちゃんから声をかけられ、杏子先輩につきまとうのをやめてくれないかと言われた。



11/5
先輩から話があると言われ屋上へ向かった。先輩は昨日の千枝ちゃんの態度を謝ってきた。偶然にもそのとき、まことが屋上へ。俺達のただならぬ雰囲気に困惑し、小走りで去っていった。その日の晩、友美から恋の相談をされる。アニキも好きな人いるの？と聞かれて、一瞬、杏子先輩のことが浮かんだ。

11/9
杏子先輩に誘われて買い物に付き合った。そこには千枝ちゃんやってきた。夜、体がとてもだるかった。

11/10
熱を出した俺のところへ杏子先輩がお見舞いにやってきた。勇気を出して、俺って弟みたいですかと聞いてみた。先輩の言葉を遮るようにまことが部屋に入ってきた。その日は、その答えを聞くことができなかった。



11/11
寝込んでいる俺に気を使って、友美が杏子先輩を呼んでくれた。

11/16
昼過ぎ、杏子先輩と駅前で待ち合わせて食事をしに出かけた。デートは順調に進んだ。映画を見た後、夕闇迫るいちょう並木を手をつないで歩いた。そこで先輩は俺にマフラーをプレゼントしてくれた。キスしたい。そう思って俺は先輩を抱き寄せる。拒もうとするが、それでも俺は強引に、それでいてできるだけ優しく唇を重ねた。うまくいくと思って俺は「好きだ」と告白するが、先輩は俺の気持ちに応えてくれなかった。



10/11



並木道でよく会う眼鏡っ娘が河原で泣いていた。どうしたんだろう？俺は声をかけて元気づけてやることにした。

10/13



休み時間、一年生らしい女の子がやってきて、突然俺をひっぱたいた。まことは今日も俺の分の弁当を持って教室にやってきた。いつものように、まこととはなんとなく仲直りしていた。その日の夜、まことが晩御飯を作りにうちへきた。昼間女の子にひっぱだかれた理由を聞かれたが、俺にはわからなかった。

10/16



学校にきてみると、昨日、先輩と一緒に帰ったことがクラス中に広まっていた。見ていたやつがいるらしい。昼休み、先輩が昨日のお礼といって俺のクラスに現れ、手作りクッキーをくれた。帰り道、そのクッキーをかっちゃんと食べた。おいしかった。その夜、俺は杏子先輩のことを考えた。

10/18

先日俺をひっぱたいた女の子と学校の廊下ですれ違った。彼女は「ふん」と一瞥して通り過ぎた。その夜、かーちゃんに頼まれて、明日、まことと買い物に行くことになった。



10/19

朝、まことから今日の買い物についての電話があった。俺は「ちょっと用事があるから」といって断ってしまった。罪悪感もちょっとあった。

10/20



まことの弁当をエスケープするため、俺はパンを買って屋上に向かった。そこで、一人で弁当を食べる杏子先輩と会い、一緒に昼をとる。パンを食べていると、先輩が自分の弁当を差し出してきて、俺に食べさせてくれた。先輩の弁当はおいしかった。

10/25



放課後、俺は図書室でテスト勉強をした。すると杏子先輩がやってきて、一緒に勉強することになった。その夜、初めて先輩を見た時のことを思い出した。

10/28

この前杏子先輩に教えてもらった問題が出題された。帰りに偶然にも杏子先輩に会ったので、勉強を見てもらったときのお礼を言った。

10/31

下駄箱を出ると杏子先輩がいた。少し話していると千枝ちゃんがやってきた。千枝ちゃんは俺の顔を見るなり嫌な顔をした。

11/1

帰り、下駄箱で杏子先輩とでくわし、一緒に帰ることになった。すると先輩が「ねぇ、お腹すかない？」と言って、二人でお好み焼きを食べにいった。



11/6



はにかみながら杏子先輩が一緒に帰らないと誘いにきた。帰り道、不意に先輩は「今の私たちって、周りからどんなふうに映るんだろう」と聞いてきた。そして俺の腕に自分の腕を絡ませて「こうしたらどう？」と言った。ところが、先輩と腕を組んで歩いていたところをまことに見られてしまった。

11/7

まことが弁当を持ってこなかった。そのため俺は食堂へ向かった。途中で杏子先輩と会って一緒に食べないかと誘われる。そのとき、偶然千枝ちゃんもやってきた。ところが先輩に急用が入ってその話はダメになった。千枝ちゃんと二人切りになって、ちょっとした言い争いをした。

11/8



夜、本来ならまことが食事を作りにくるはずだったが、こない。友美に言われて、買い出しにいくことになり、スーパーで杏子先輩と会う。そしてその日は、杏子先輩の手料理をご馳走になった。明日、先輩と一緒に買い物に行くことになった。

11/12



かっちゃんがお見舞いにきた。そのときちょうど杏子先輩もお見舞いにやってきた。かっちゃんは気を使って早く帰った。その後、俺は杏子先輩に俺のことをどう思っているのか聞いてみた。先輩は「弟とは思っていない、けど・・・・ごめんなさい」といって帰った。

11/14



廊下で杏子先輩と会う。昼休みにちょっと話があると言われ屋上へいった。先輩は元気になったお祝いとして、どっかに遊びに行かないかと誘ってきた。夜、友美の読んでいた雑誌をぱらぱらめくった。そこには"キスで終わるデート"と書かれていた。

11/15

授業中が終わっても杏子先輩とのデートのことばかり考えていた。そんなとき先輩が現れてどぎまぎしてしまった。その日も杏子先輩と一緒に帰った。

11/19



杏子先輩にふられてから、俺はずっと学校を休んだ。今日が何日目かは数えていない。どうして先輩は俺の気持ちに応えてくれなかったのか自問自答していた。そのうち、かっちゃんが心配してやってきた。そこではじめて、杏子先輩がもうすぐフランスへ行くという事実を聞かされた。かっちゃんの話を聞き、いてもたってもいられず俺はすぐさま杏子先輩の家へ向かった。だが、部屋から飛び出したとき、そこにはまことがいた。俺のことを好きだといってくれたまことを残して、俺は無我夢中で先輩の家へ走った……。



若月みやこ

自分を変えたいといつも願う女の子

10/9
まことに男を紹介しようとして、俺は鞄で顔を殴られた。かっちゃんからもまたまことと喧嘩したのかと呆れられる。そういえば、学校からの帰り道、いちょうの並木道で最近よく見る眼鏡をかけた地味な娘と目があった。いつも誰かを待っているのだろうか？

10/10
昨日のことを怒りながら、まことは今日も俺のところへ弁当を届けにきた。帰り道、かっちゃんから、まことと仲直りしたのか聞かれる。並木道でまた眼鏡っ娘と会った。そして今日もまた目があってしまった。

10/16
今朝も下駄箱のところで若月さんが待っていた。昼、まことが弁当を持ってやってきた。彼女ができたので弁当を食べられないと言おうとしたが、とりつく島がなかった。かっちゃんからもちゃんと話した方がいいんじゃないかと言われた。今日も若月さんと一緒に俺の家の前まで帰った。いったい彼女の家はどこなんだろう？そんなことを思った。

10/17
今日も下駄箱で待っていた若月さんに挨拶をした。学校にくる時間がまちまちの俺は、彼女に気を使う気持ちで、「待ってなくていいよ」と言ったつもりだったが、どうやら待っててもらうのは迷惑だと誤解されてしまったらしい。その後、若月さんに今朝のことを謝った。帰りに思い切って若月さんの家の場所を聞いた。うちとは正反対だったので自転車で送っていった。

10/20
今日もみやこちゃんが下駄箱で待っていた。どうしたのと聞くと「昨日・・あえなかったから・・・」と言って、顔を赤くさせそそくさといってしまった。昼休み、千枝ちゃんが俺のクラスへやってきた。ちょうど何も知らないまことが、今日も俺の弁当を持ってやってきた。そんなやりとりを見ていた千枝ちゃんが、突然大きな声で「それだ！？」といって去っていった。帰り、下駄箱に手紙が入っていた。千枝ちゃんからの指令で、俺は無視することもできず、みやこちゃんと帰るのを諦めた。



10/25
千枝ちゃんからある紙を手渡された。帰り道、その紙を広げてみると"手をつなげ！"と書かれていた。手を出してみたり、さりげなく近づいてみるが、うまくいかなかった。夜、みやこちゃんに電話をした。明日一緒に勉強することになった。

10/27


みやこちゃんが俺の家に遊びにきた。友美も学校から帰ってきて一緒に遊んだ。そして、みやこちゃんを家まで自転車で送っていった。





11/6
昼休み、まことの弁当とみやこちゃんの弁当、どちらがうまいのかという話になった。そして放課後、千枝ちゃんからの指令でまことを呼び出した。千枝ちゃんがみやこちゃんをけしかけて、まことと俺の関係を直接聞かせた。その晩、みやこちゃんから電話があって、当分、弁当を作れないと言われた。

11/9
夜、まことが夕飯を作りにきた。それとなくみやこちゃんのことを聞いてみたが、はぐらかされた。





11/16
みやこちゃんとのデートの日。だがいくら待っても彼女が現れない。家に電話をかけてみるとみやこちゃんの父親が出て、二度と会わないでくれと言われた。

11/17
夜、みやこちゃんが尋ねてきた。傘もささず、ずぶ濡れだった。体を温めるために風呂に入ってもらう。俺が部屋で待っていると、裸のままやってきた。そして、「早く先輩と一つになりたい」と言った。だが、俺は抱かなかった。それからきちんと話をしに彼女の家へ向かった。おやじさんに殴られ、その日は帰った。

10/11

並木道でよく会う眼鏡っ娘が河原で泣いていた。どうしたんだろう？俺は声をかけて元気づけてやることにした。



10/13



休み時間、一年生らしい女の子が俺の前に現れて、ラブレターを置いていった。まことは今日も俺の分の弁当を持って教室にやってきた。いつものように、まこととはなんとなく仲直りしていた。帰り道、かっちゃんにラブレターのことを聞かれた。その日の夜、まことが晩御飯を作りにうちへきた。

10/14

昨日もらったラブレターを読んだ。この前元気づけた眼鏡っ娘からのものだった。返事をどうしようか放課後まで考えることにした。まことも俺がラブレターをもらったことを聞いたらしく、その娘にはちゃんと返事をしなさいと言っていた。結局俺は、眼鏡っ娘の若月みやこと付き合うことにした。



10/18

若月さんの友達が、彼女をどうするつもりと俺のクラスまでどなり込んできた。そして、彼女は俺達の仲介役を買って出た。先日自転車で家まで送って以来、若月さんは俺の言葉に過剰反応しなくなった。



10/19

若月さんの友達の松山さんから電話があった。今すぐ学校へこいといって、一方的に話すと電話を切る。呼び出されるまま学校へ向かうと、制服姿の彼女がいた。松山さんではなく千枝でいいといった彼女は、俺と若月さんがうまくいくようにいろいろと作戦を考えてくれた。

10/21

みやこちゃんと付き合っていることをまことに話にいく。まことは呆然としながら教室へ入っていった。昼休み、いくらまってもみやこちゃんが来ない。耐えきれずパンを買いにいくと千枝ちゃんと会った。どうもみやこちゃんの手作りお弁当作戦は失敗したようだ。

10/22

みやこちゃんが弁当を作ってきてくれた。お世辞にも美味しいとは言えるものではなかったが、みやこちゃんの気持ちは伝わった。



10/23

昼休み、待っても待ってもみやこちゃんの弁当がこない。帰り、みやこちゃんからエビフライの話を聞いたら、たまらなくお腹が減った。

10/24

また、みやこちゃんが弁当を作ってきてくれた。帰り、みやこちゃんは図書委員の仕事があるため、俺は先に帰ろうとした。ところが千枝ちゃんから、ちゃんと待ってあげなさいと言われ、俺はみやこちゃんを待っててあげることにした。

10/28

学校の帰り、みやこちゃんと千枝ちゃんとデパートにいった。

10/31

みやこちゃんと初めて手をつないだ。

11/3

いつもに増して元気のないみやこちゃん。帰り道、思い切ってどこかへいこうと誘う。しばらく駅前でぶらぶらしていると、本屋の前でみやこちゃんが立ち止まった。そして、かーちゃんの新作を欲しそうに手にとった。

11/4

夜、かーちゃんの新作にサインをもらった。これをみやこちゃんにプレゼントしよう。

11/5

昼休み、かーちゃんの本をみやこちゃんにプレゼントした。そのおかげで、みやこちゃんはすっかり元気になった。また、帰りにみやこちゃんを誘ってデパートへいった。夜、千枝ちゃんが家へ尋ねてきた。

11/10

みやこちゃんが弁当を作ってきてくれた。みやこちゃんはまことから料理を教わっていたらしく、その味はどこか懐かし味がした。帰り、みやこちゃんをうちに誘った。俺はキスをしようとしたが、その瞬間、かっちゃんから電話が入ってできなかった。

11/11

昼休み、みやこちゃんが眼鏡をはずしてたっていた。俺はみやこちゃんを誉めた。帰り道で再び眼鏡をはずしてもらい、遊びにいった。



11/13

並木道でみやこちゃんの夢を聞いた。みやこちゃんから改めて好きと言われ、とっさにみやこちゃんの手をつかみ、唇を重ねた。



11/18

授業が終わっても俺は家に帰りたくなかった。やがて教室から人がいなくなった。窓の外をぼんやり眺めていると「先輩」と呼ぶ声がした。振り返るとそこには、みやこちゃんがいた……。



松山千枝

ちょっと気が強いスポーツ少女







10/9
まことに男を紹介しようとして、俺は鞄で顔を殴られた。かっちゃんからもまたまことと喧嘩したのかと呆れられる。そういえば、学校からの帰り道、いちょうの並木道で最近よく見る眼鏡をかけた地味な娘と目があった。いつも誰かを待っているのだろうか？

10/10
昨日のことを怒りながら、まことは今日も俺のところへ弁当を届けにきた。帰り道、かっちゃんから、まことと仲直りしたのか聞かれる。その日俺は、まことの怒った理由を考えながら帰宅する。並木道でまた眼鏡っ娘と会った。そして今日もまた目があってしまった。

10/15


朝、下駄箱のところで若月さんと会った。俺は何を話していいのかわからなかった。昼、かっちゃんから女の子との付き合い方を聞いた。早速、かっちゃんに言われたことを行動に移し、一年の教室の前で若月さんが出てくるのを待った。その後、俺達は一緒に帰った。

10/16
今朝も下駄箱のところで若月さんが待っていた。昼、まことが弁当を持ってやってきた。彼女ができたので弁当を食べられないと言おうとしたが、とりつく島もなかった。かっちゃんからもちゃんと話した方がいいんじゃないかと言われた。今日も若月さんと一緒に俺の家の前まで帰った。いったい彼女の家はどこなんだろう？そんなことを思った。

10/20
昼休み、千枝ちゃんが俺のクラスへやってきた時、ちょうど何も知らないまことが、今日も俺の弁当を持ってやってきた。そんなやりとりを見ていた千枝ちゃんが、突然大きな声で「それだ！？」と言って、不敵な笑みを残しながら去っていった。その日の放課後は、千枝ちゃんがみやこちゃんに弁当を作らせるという作戦を実行すると言ってきた。ちょっと楽しみだな。

10/21
みやこちゃんと付き合っていることをまことに話にいった。そして、まことは呆然としながら教室へ入っていった。昼休み、いくら待ってもみやこちゃんたちが来ない。耐えきれずパンを買いにいくと廊下で千枝ちゃんと会った。どうも今日のみやこちゃんのお弁当作戦は失敗したようだ。

10/26


千枝ちゃんに呼ばれたとおり、学校へ行った。学校に着くと屋上に連れられ、そこで千枝ちゃんと手をつなぐ練習をすることになった。何度か練習していくうちにどんどんお互い恥ずかしくなってしまった。そして、ちょっとした事故から俺たちはキスしてしまったんだ……。



11/3
朝、千枝ちゃんが俺のことについて色々聞いてきた。あの千枝ちゃんがそんな乙女チックなことを聞いてくるなんて……。お昼のお弁当の時も千枝ちゃんはみんなで一緒に食べようとしなかったし、下校の時も遠慮がちだった。どうも千枝ちゃんの様子がおかしい。

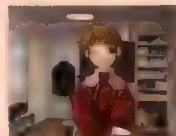
11/4
３人でお昼を一緒に食べた時に千枝ちゃんの占いの本を拾った。どうやら千枝ちゃんは俺との相性を占っていたらしい。そして、その夜、千枝ちゃんが俺の家に来た。やっぱりどうも様子が変だ。

11/5
学校に忘れた占いの本を取りに行くと、千枝ちゃんに出会った。その時、ちょっとした事故で千枝ちゃんが足をくじいてしまい、俺は彼女を保健室へと連れていった。その後、千枝ちゃんをおんぶして学校から帰った。

11/11


千枝ちゃんと杏子先輩と３人で買い物へ出かけた。そこで見つけた猫の指輪を千枝ちゃんに買ってあげたら、千枝ちゃんは大喜びしてくれた。何だか元気を取り戻したようで俺まで嬉しくなってしまった。やっぱり千枝ちゃんにはいつも笑っていて欲しいな。

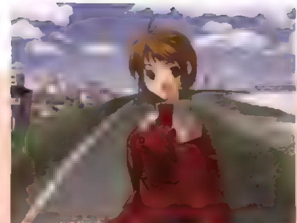
11/14
夜、千枝ちゃんが家に来た。どうやら次の日曜の試合でレギュラーになれるらしく、俺は応援に行く約束をした。



10/11

並木道でよく会う眼鏡っ娘が河原で泣いていた。どうしたんだろう？俺は声をかけて元気づけてやることにした。どうやら友達のことで悩んでいるようだった。確か友達の名前は千枝ちゃんだったかな……。

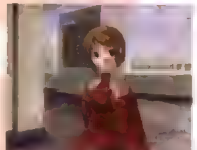
10/13
休み時間、一年生らしい女の子が俺の前に現れて、ラブレターを置いていった。ずいぶんいきなりだったから名前も聞けなかったな。その日の帰り道、かっちゃんにラブレターのことを聞かれた。

10/14

昨日もらったラブレターを読んだ。この前元気づけた眼鏡っ娘からのものだった。返事をどうしようか放課後まで考えることにした。結局俺は、眼鏡っ娘の若月みやこと付き合うことにした。そういえば、若月さんと一緒にラブレターを持ってきてくれた女の子も来てたな。

10/17
今日も下駄箱で待っていた若月さんに挨拶をした。その後若月さんの所にいったら、友達の松山千枝さんを紹介された。あのラブレターを持ってきてくれた女の子だ。その日の学校帰り、俺は思い切って若月さんの家の場所を聞いた。すると、俺の家とは正反対の方向だったので、自転車で送っていった。

10/18

松山さんが、みやこをどうするつもりと俺のクラスまでどなり込んできた。そして、俺と若月さんの仲介役を買って出た。俺は確かにいい考えだと思ったのだが、松山さんの不敵な笑みを見ていたら、何だか悪い予感がしてきた。放課後、若月さんを迎えにいくと、松山は若月さんのお尻を触っていた。仲良くなるとあんな挨拶ができるようになるのかなと思った……。

10/19

松山さんから電話があった。今すぐ学校へ来いといって、一方的に話すと電話を切ってしまった。呼び出されるまま学校へ向かうと、制服姿の彼女がいた。松山さんではなく千枝でいいと言った彼女は、俺と若月さんとがうまくいくようにいろいろと作戦を考えてくれた。千枝ちゃんっていい子だったんだ。

10/22

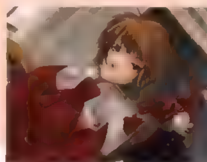
みやこちゃんがお弁当を作ってきてくれた。お弁当はお世辞にも美味しいとは言えるものではなかったが、みやこちゃんの気持ちは伝わった。

10/24
またみやこちゃんが千枝ちゃんと一緒に弁当を持ってきてくれた。帰り、みやこちゃんは図書委員の仕事があるため、俺は先に帰ろうとした。ところが千枝ちゃんから、ちゃんと待ってあげなさいと言われ、俺はみやこちゃんを待ってあげることにした。


10/25
千枝ちゃんからある紙を手渡された。その時、あまりに千枝ちゃんが接近してくるので、俺はちょっと千枝ちゃんを女の子として意識してしまった。帰り道、その紙を広げてみると"手をつなげ！"と書かれていた。手を出してみたり、さりげなく近づいてみるが、うまくいかなかった。夜、千枝ちゃんから電話があった。手をつなげなかったと報告すると、明日学校に来いと言った。何でも１日で手をつなげるようにしてくれるらしい。

10/28

学校の帰り、千枝ちゃんとみやこちゃんと一緒にデパートにいった。俺はそこで千枝ちゃんに似合いそうな服を探してあげた。その後の千枝ちゃんはすごく嬉しそうだったな。俺は小夏ちゃんのＣＤを買って帰った。

10/29
放課後、千枝ちゃんが遊びに行こうと誘ってきた。俺が勉強すると言うと、彼女はムキになって遊びに行こうと言い出してきた。

結局、どちらも一歩も引かないままでいると、ついに千枝ちゃんは泣き出してしまった……。その夜、みやこちゃんから電話があり、俺と千枝ちゃんのことを心配していた。

10/30

喧嘩した千枝ちゃんと仲直りするために、俺は千枝ちゃんをみやこちゃんと一緒に遊びに行こうと誘うことにした。結局、駅前に出た俺たちは、駅前のチラシに書いてあったプラネタリウムを見にいった。



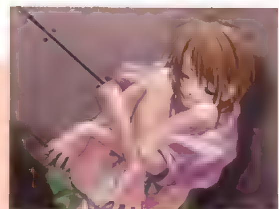
11/7
最近千枝ちゃんは食欲がないらしく、心配になった俺とみやこちゃんは、千枝ちゃんの様子を見にいった。

11/9

友美に言われ、かーちゃんの強壮剤を買いにでかけると、千枝ちゃんと出会った。千枝ちゃんは兄弟たちと一緒で、みんなを紹介してくれた。その時の千枝ちゃんは学校で会っているときとの印象とは違い、とても面倒見のいいお姉さんといった雰囲気だった。

11/10
今日は授業中に居眠りをしたせいで、居残りをさせられた。その後、補修をしていた千枝ちゃんと一緒に帰った。

11/15
学校の帰りにみやこちゃんが俺の家に寄っていった。そこで今度の日曜日に一緒に出かけましょうと誘われた。しかし、その日は千枝ちゃんの試合の日でもある。俺はその場でいいよと答えながらも何故か心がチクッと痛んだ。俺はみやこちゃんとつき合っているんだと必死に自分自身に言い聞かせた。

11/16

今日は千枝ちゃんの試合の日でもあり、みやこちゃんとのデートの日でもあった。でも、千枝ちゃんなら一人でもなんとかなる。そう思って、俺はみやこちゃんのデートへと出かけた。しかし、何故か足取りは重く、俺はみやこちゃんに断りの電話をしてしまった。その後千枝ちゃんの試合に行ってみると、杏子先輩から千枝ちゃんが試合でミスをしてしまったことを聞かされた。千枝ちゃんのことがどうしようもなく心配になった俺は、その夜千枝ちゃんに電話をかけた。しかし、千枝ちゃんは自宅に帰っていなかった。心配になった俺は外へと飛び出し、学校を目指し走り出した。そう、俺は自分の気持ちに気付いてしまった。彼女への気持ちに……。

オータム・ブリーズ　~タイムレス・マインド~

作詞：AKO
作曲・編曲：西野尚利
演奏：Outer Words

あなたがドアをすり抜けてくるのが聞こえて　私の心は高鳴る
月が高いのを感じる、私には　彼女の祝うわけがわかる

人は簡単に恋に落ちる
難しいのはそれを保つ事

■（風に吹かれて踊る）
　静かに　かつ強く　時を越え　終りなき恋をする
　（風の音が紅色に染まる）
　真実を知らない二人なら　また出会う時まで
　（風に吹かれて踊る）
　二人の心と魂はタイムレス・マインド、身体は置いて行く
　（風の音が紅色に染まる）
　心の眼を開いたら　そこに何が見える?

僕たちは景色のいい道を一緒に帰った
いつも　それが決まったコース
やわらかな日差しに照らされて
時折かげりを見せる君の微笑み

二人はとても長い間　そよ風にただよっていた
枝からひきはなされた枯葉のように
数えきれない時を経て
きっとまたここに戻ってくるだろう

そっと　あなたと大切なことを学ぶ
もっと優しく　分かち合う

幾星霜もかけて　やっと（また）出会えた
絶対に　偶然なんて存在しない
今回もまた

■くり返し

Autumn Breeze ~Timeless Mind~

Written by AKO
Composed & Arranged by Naotoshi Nishino
Performed by Outer Words

I hear you coming through the door, my heart accelerates
I feel the moon is high, and I know why she celebrates

Falling in love truly is easy
Staying in love truly is not so easy

■ (We'll be dancing in the autumn breeze)
　So calmly though strongly, we just love each other endlessly
　(The sound of wind is turning autumn red)
　If we're too blind to see the truth, then until we meet again
　(We'll be dancing in the autumn breeze)
　Our heart and soul are timeless mind, Our bodies,
　we just leave behind
　(The sound of wind is turning autumn red)
　Open your eyes within your soul, and surely, what do you see?

We used to take the scenic way home together
Always - that was our same old routine
Softly in the ray of the sun
Sometimes your smile disappear in a cloud

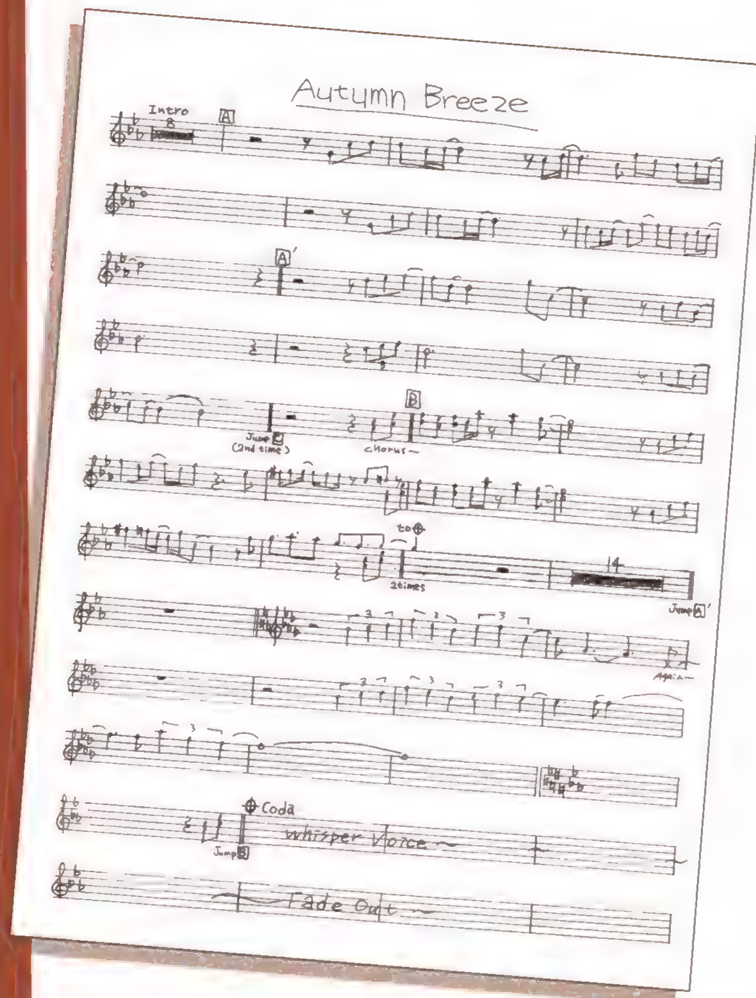
We drifted in the air for such a long time
Like falling leaves ripped away from the trees
Years and years, no matter how long it may take
I know we'll be coming back here again

Learning the best with you tenderly
Sharing the best with you more tenderly

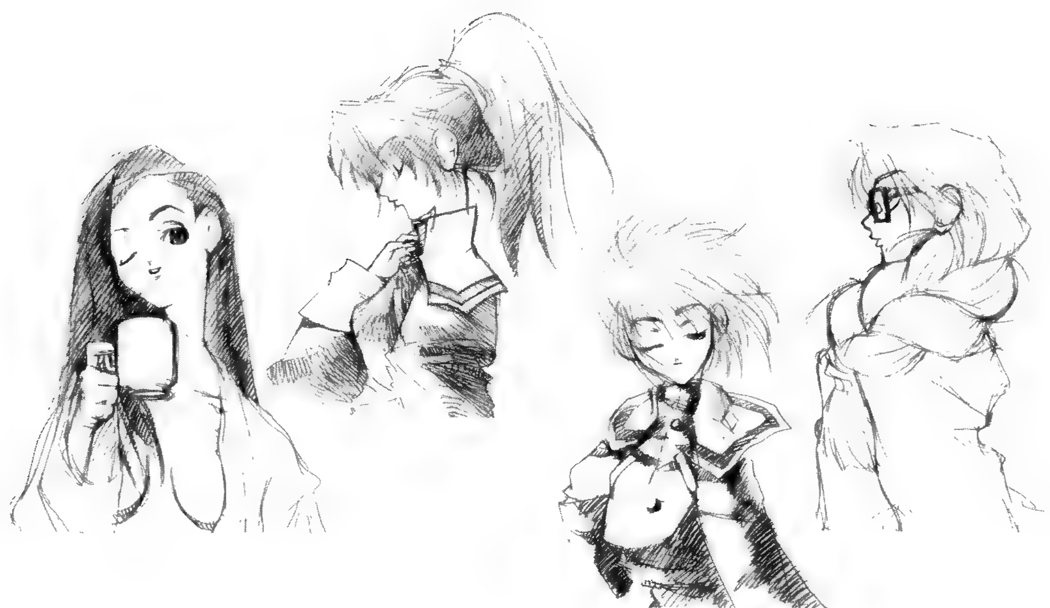
Searched generations and finally found you (again)
It's not a coincidence, by all means
This time again

■Repeat





原画&設定資料



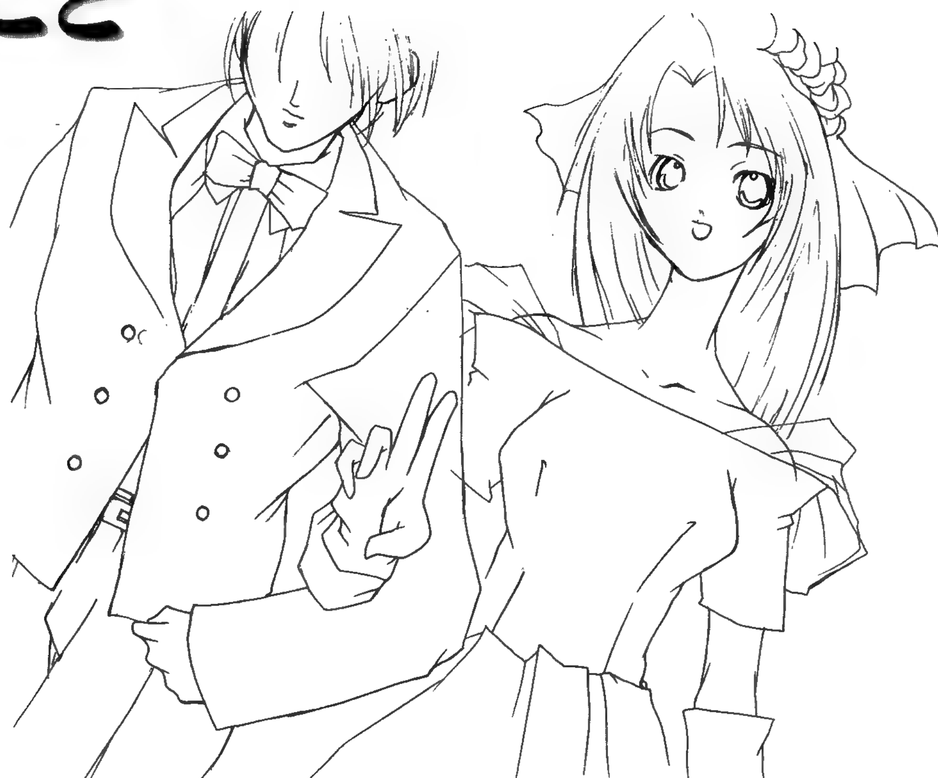
Original Pictures

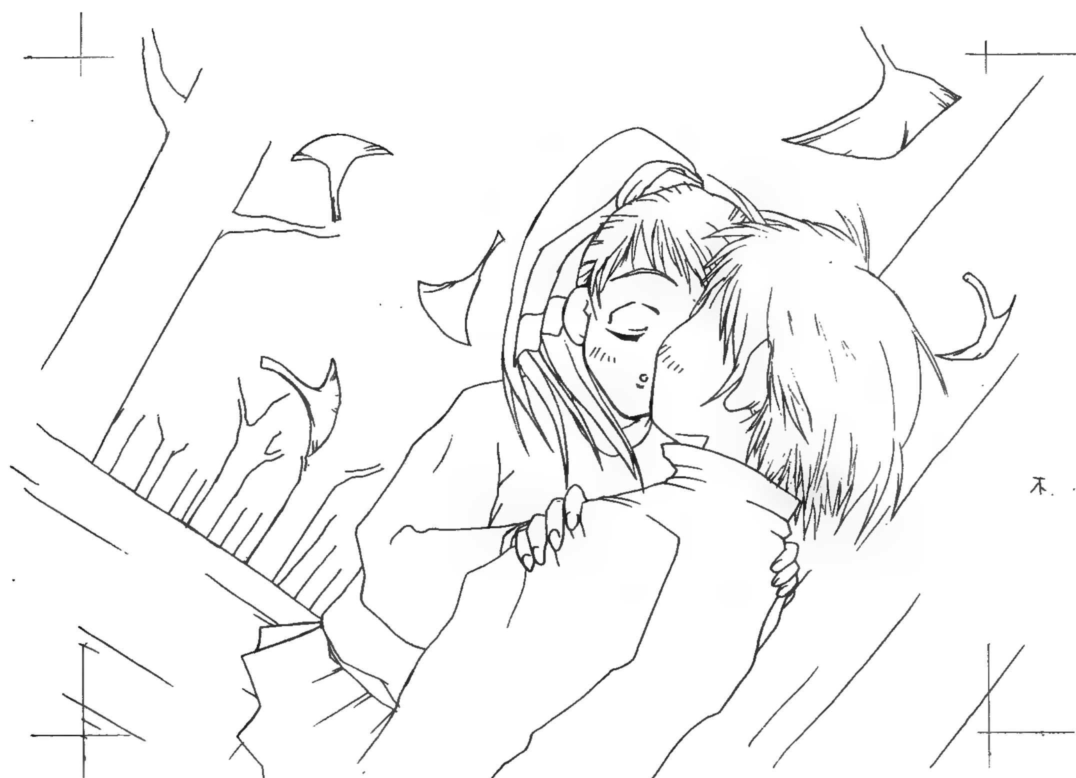
ここではイベントシーンの原画を紹介していこう。
これらの原画から美しいCGが出来上がっていくのだ。

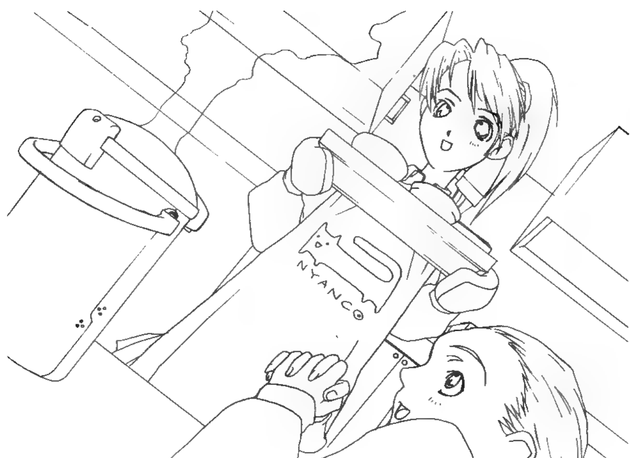
上級生

Makoto Yoshizawa

吉沢まこと





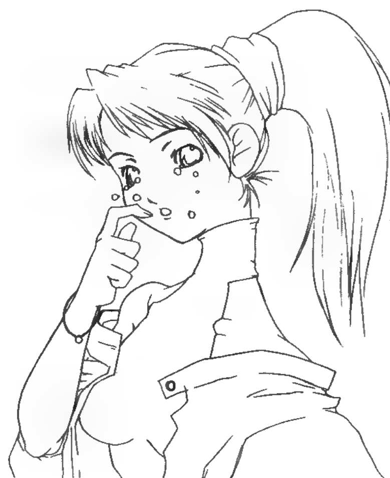

NYANCO








SUBTLE



上級生

Makoto Yoshizawa











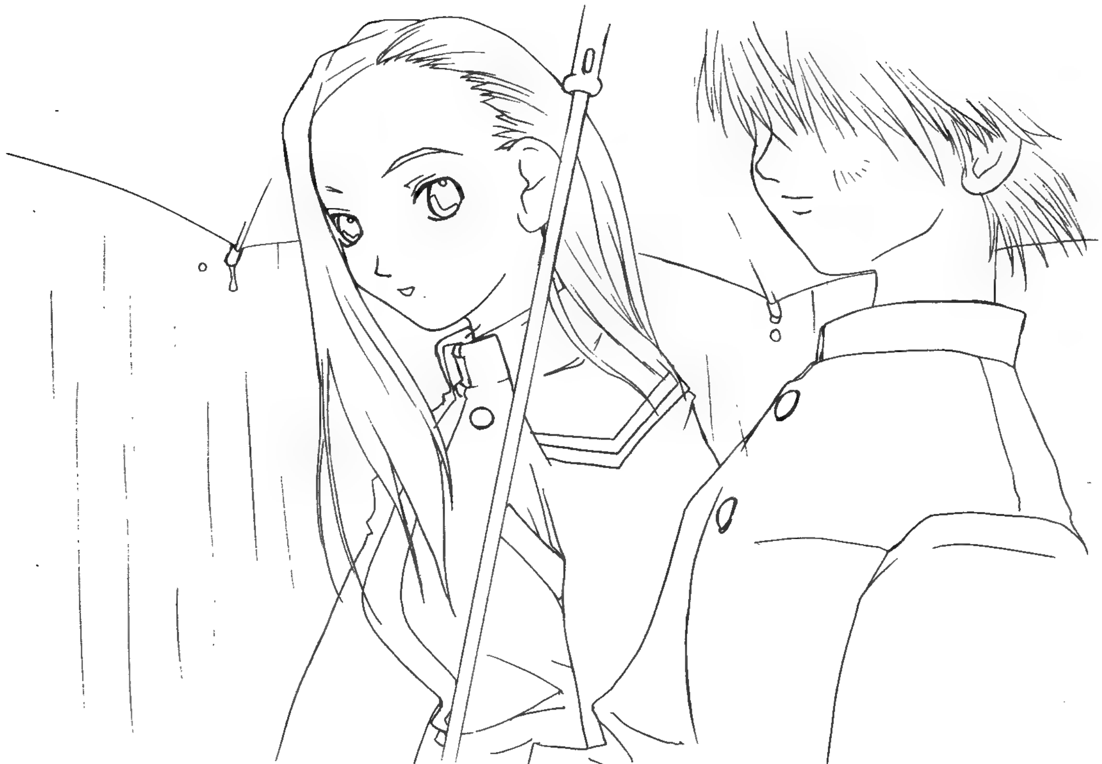


上級生

Kyoko Ayase

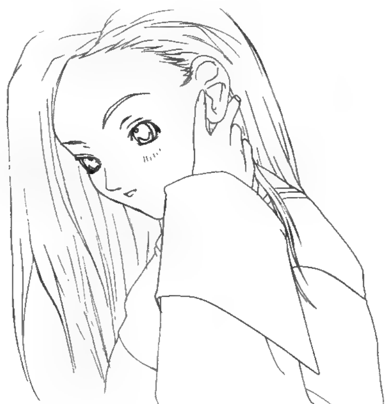
綾瀬杏子

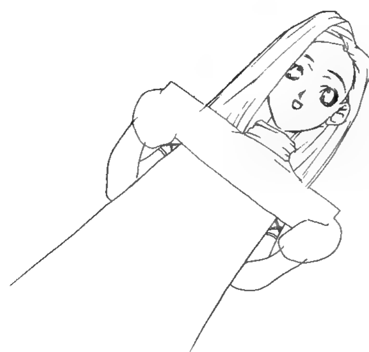




上級生

Kyoko Ayase



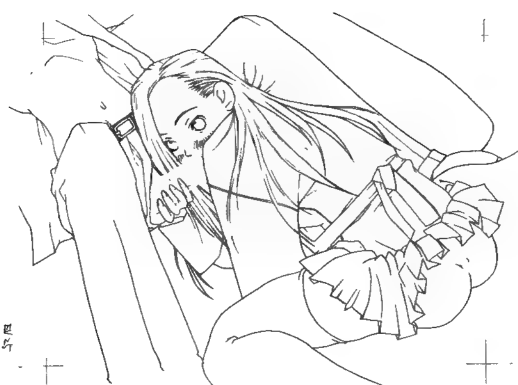


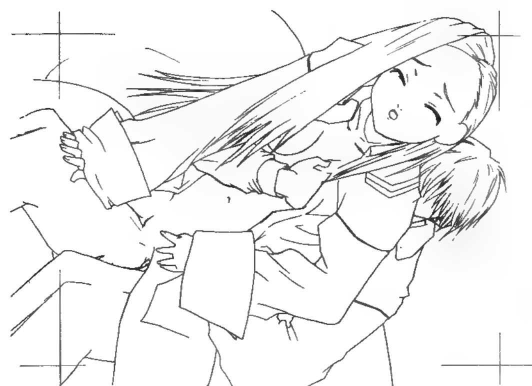
















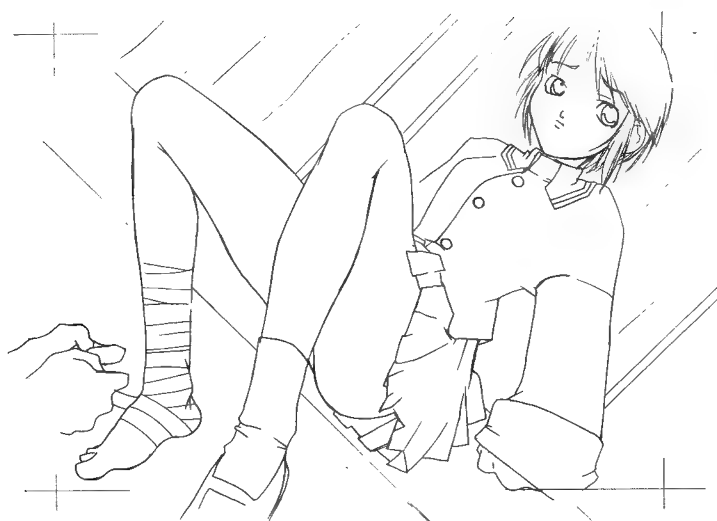
下級生

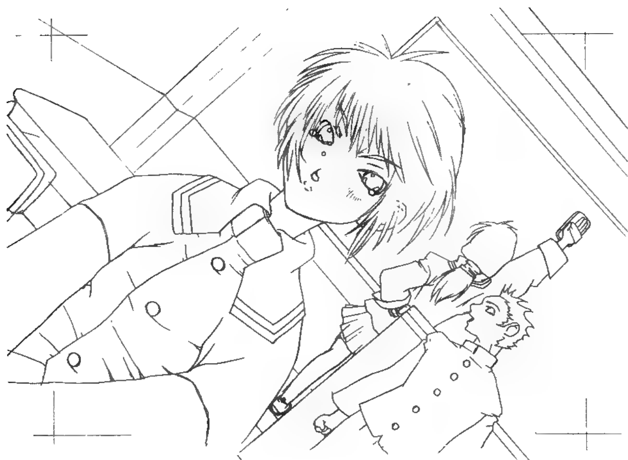
Chie Matsuyama

松山千枝





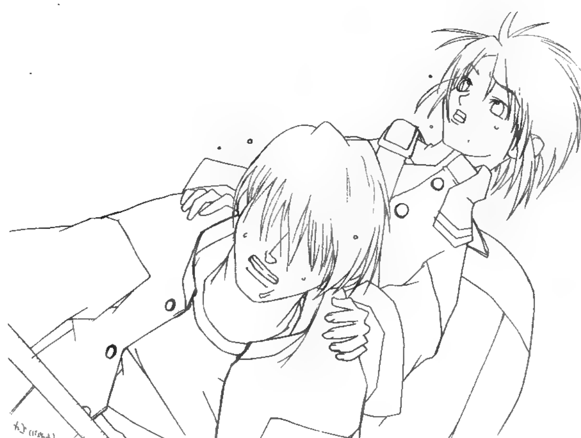








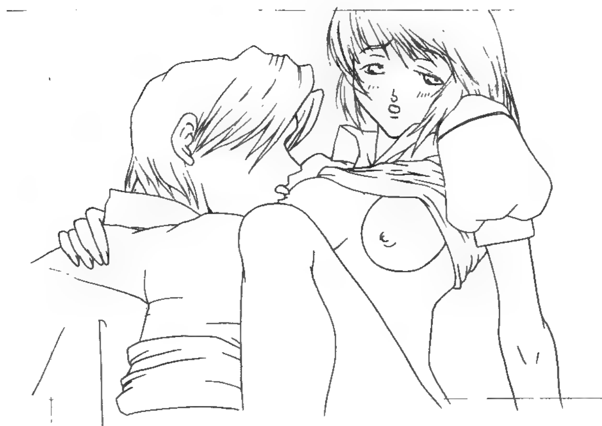


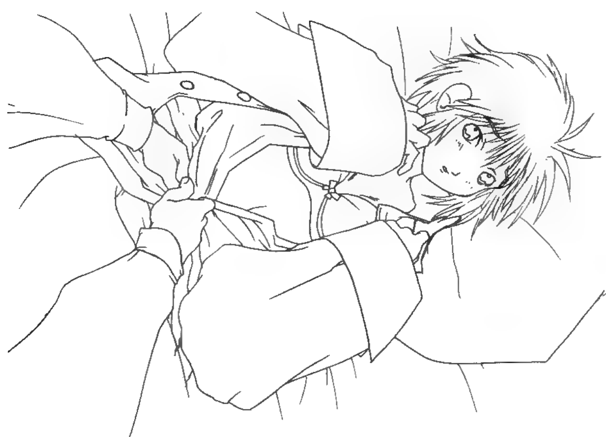


下級生

Chie Matsuyama













下級生

Miyako Wakatsuki

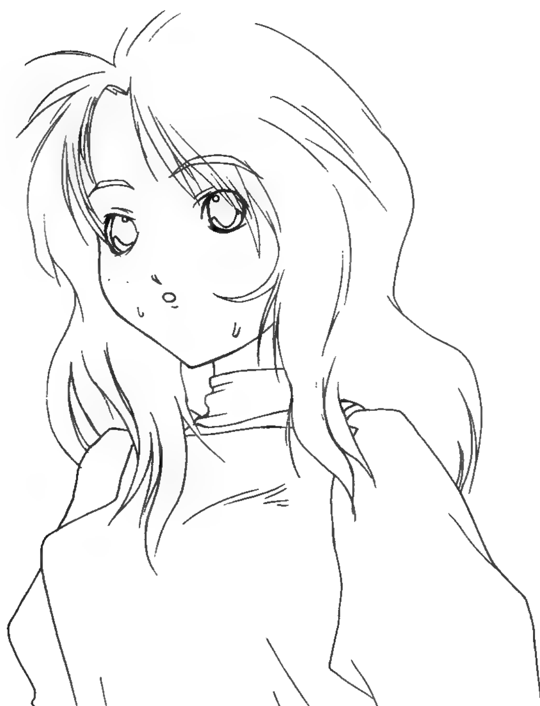
若月みやこ





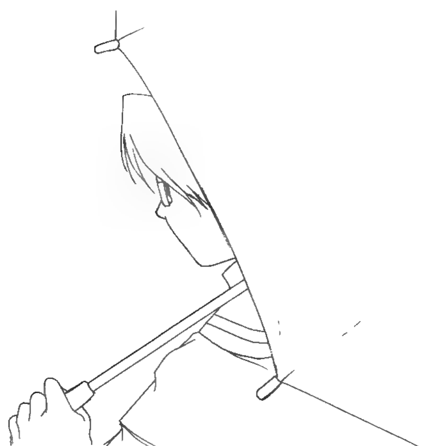
下級生

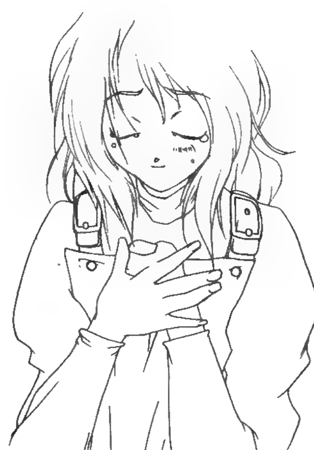
Miyako Wakatsuki



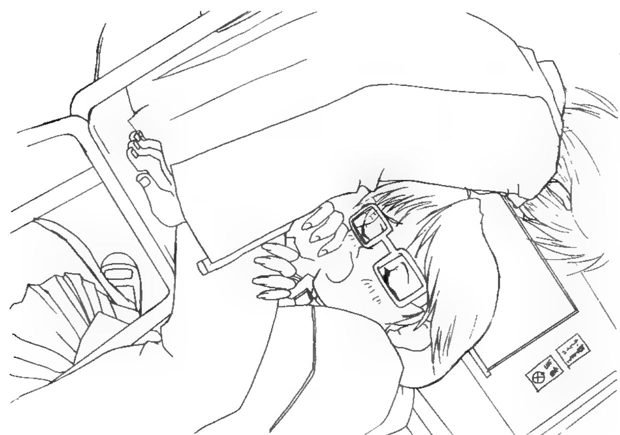










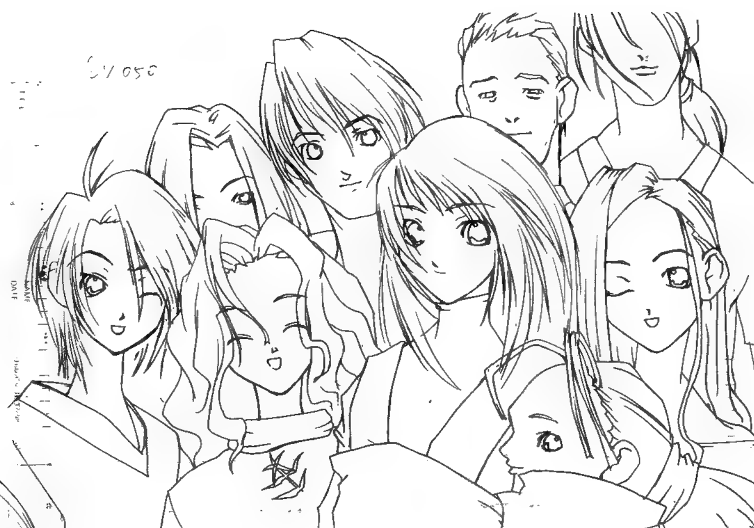



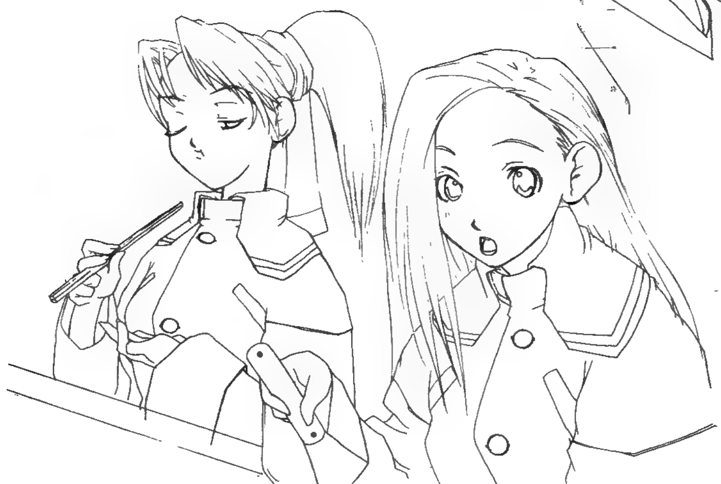
EV114

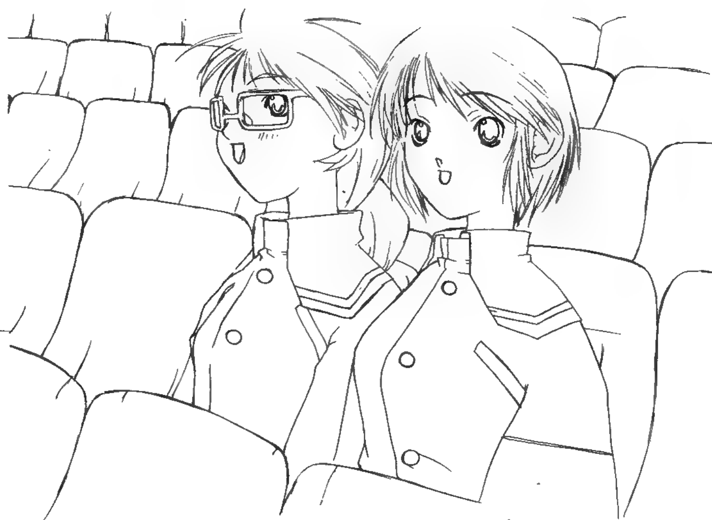
Original Pictures

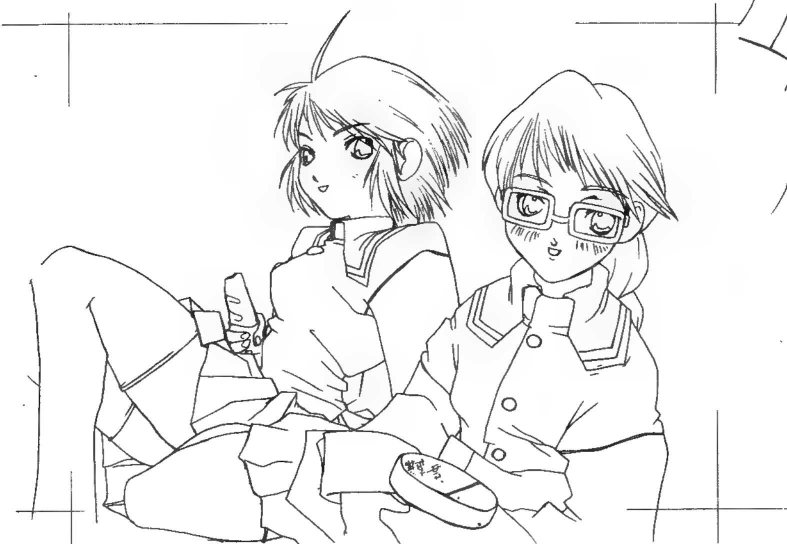
Group Picture

集合イラスト









Sub Character

サブキャラクター



Design Art Works

ここからはキャラクターを制作する上で生まれた設定やラフを紹介していこう。どれも簡単には見ることができない貴重なのものだ。

上級生

Makoto Yoshizawa

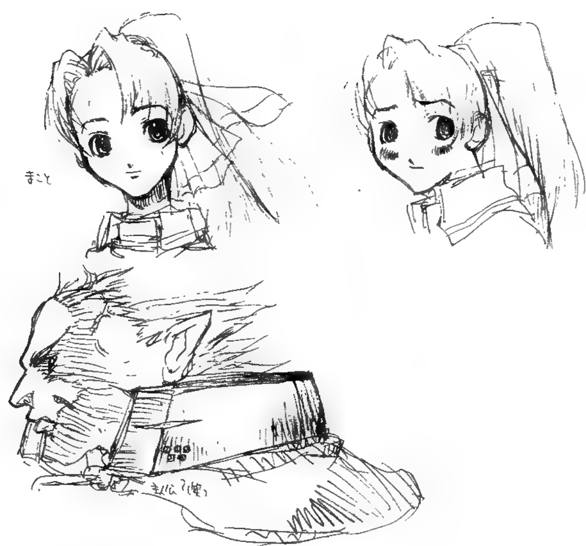
吉沢まこと







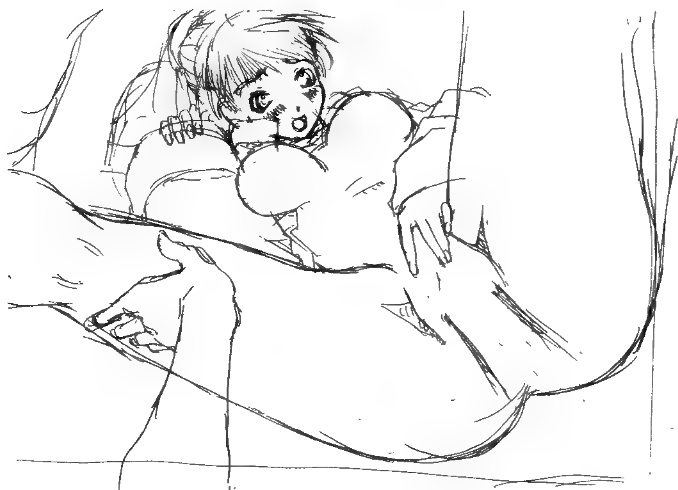






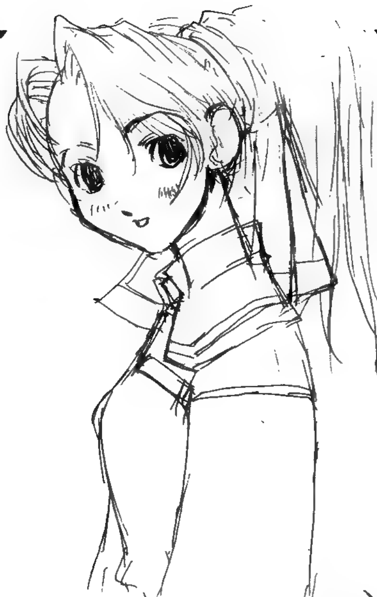
立ち絵用参考





上級生

Makoto Yoshizawa









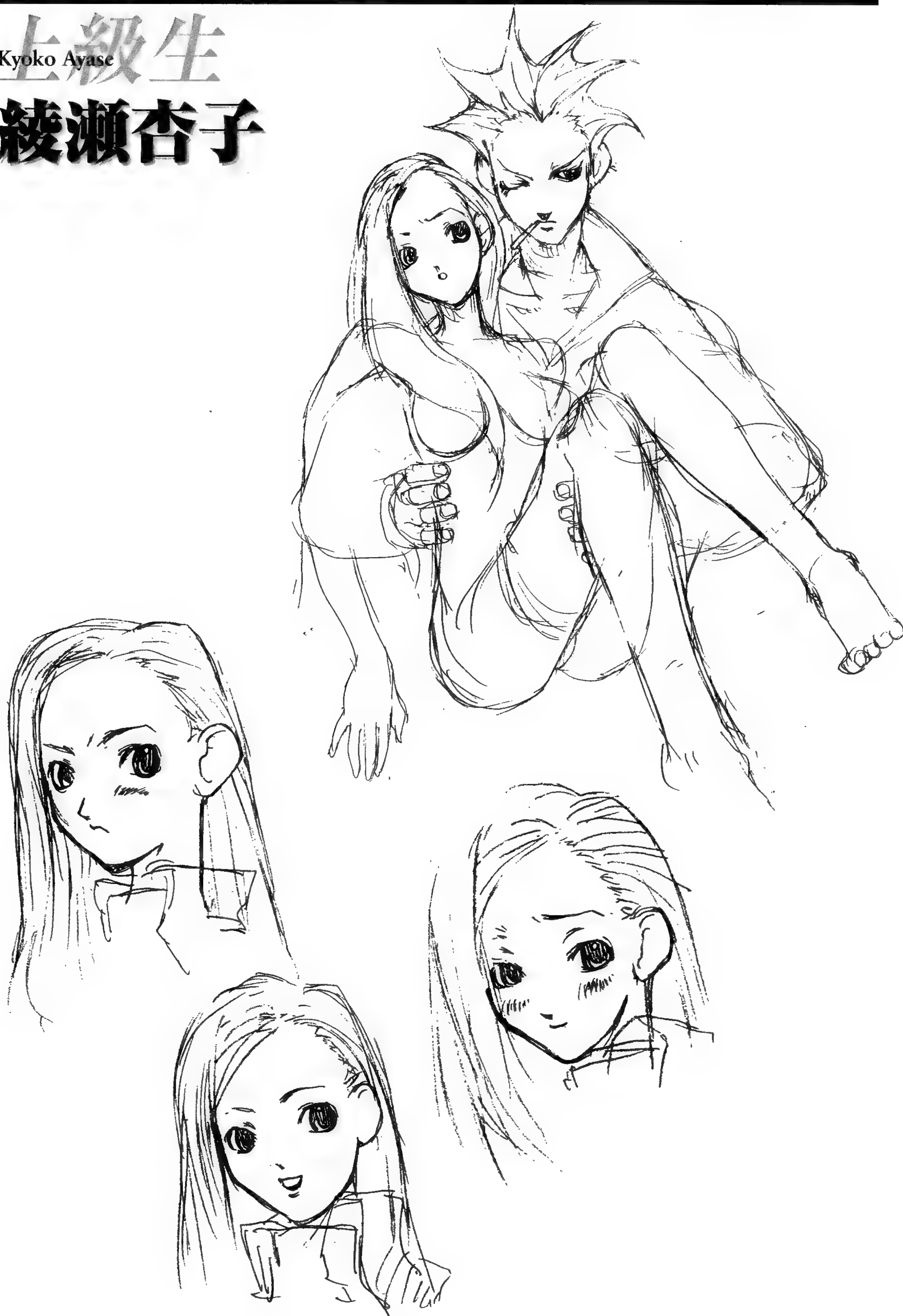




上級生

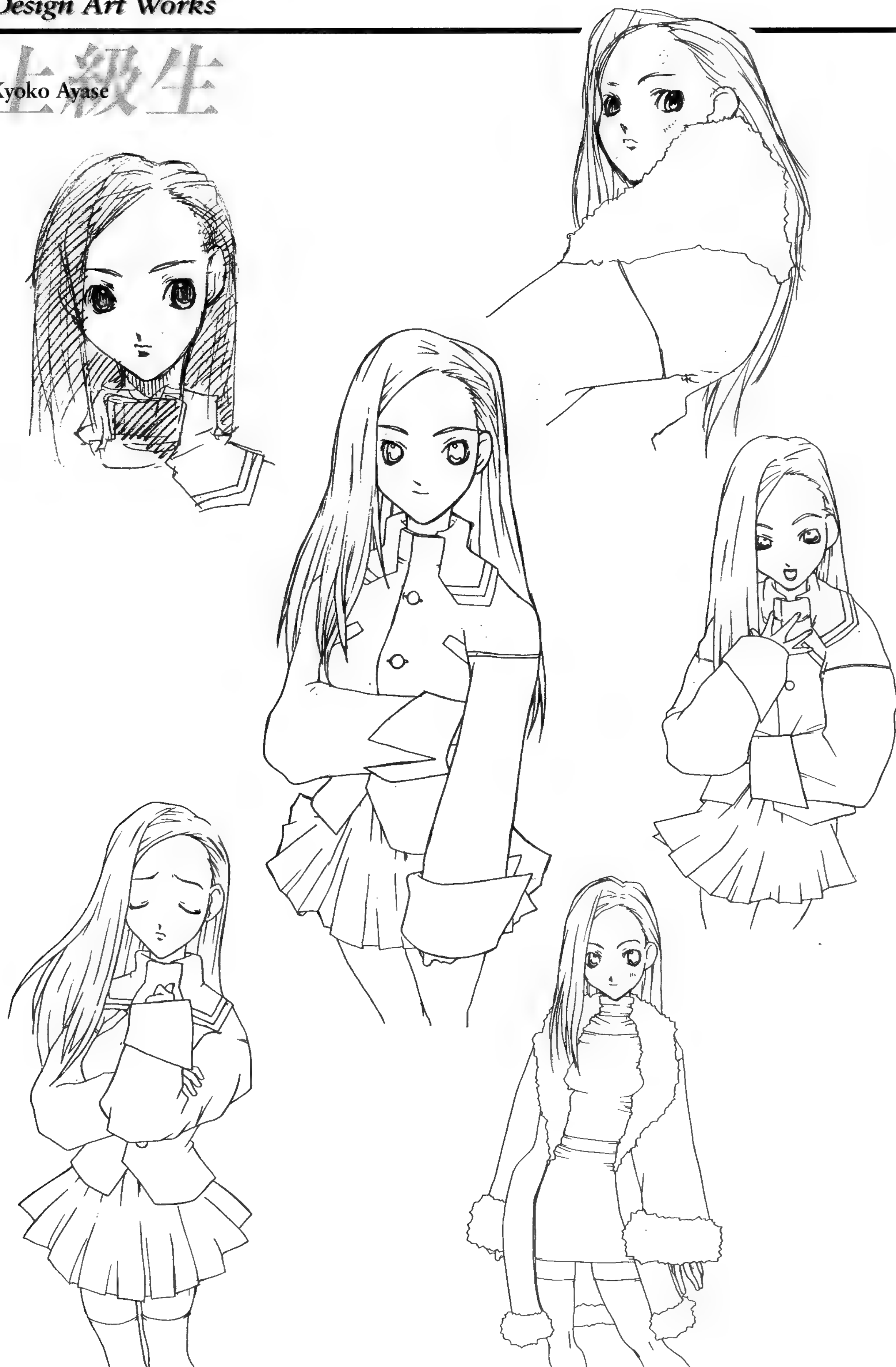
Kyoko Ayase

綾瀬杏子



上級生

Kyoko Ayase



下級生

Chie Matsuyama

松山千枝

6/4分け

キリッとした眼

ちえ

にらみ

おさなく

まゆ高く

笑

目線をそらす



ラクロス

初期設定の千枝は、ゲーム中の勝ち気なイメージよりも落ち着いた感じに見える。ラクロス部という設定らしく、頭にヘアバンドをしているのがポイント。

下級生

Miyako Wakatsuki

若月みやこ





















みやこ初期設定







みやこが眼鏡っ子という設定は昔からあったらしい。こちらはゲーム中に比べるとかなり大人びた雰囲気がある。これなら千枝も手を焼かなかっただろうに……。

Sub Character

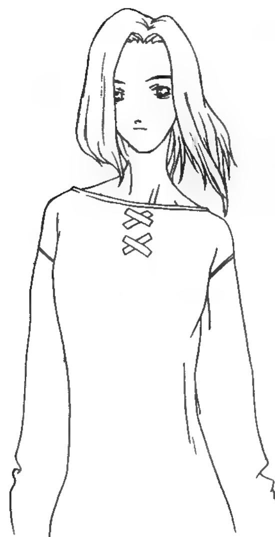
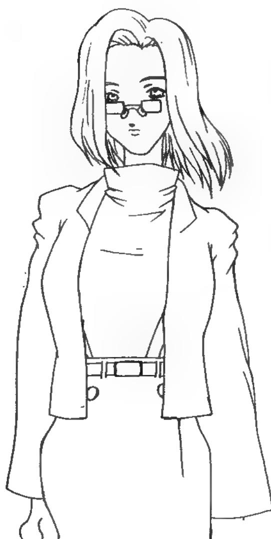
Tomomi Akiyama
秋山友美






Atsuko Akiyama
秋山温子



Katsunori Kawanishi
川西勝典



Ohsawa
大澤



Others

この中で紹介しているものは、ポスターやマウスパッドなどの販促物の原画である。制服などはここまで細かく設定が作られているのだ。

マニュアル

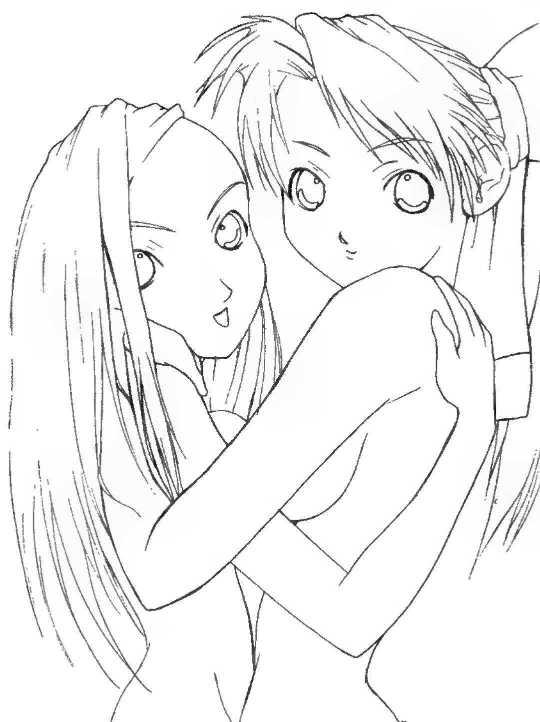
マニュアルの10ページに書かれているイラストがコレ。別名ファイティングまことと言うらしい。破れかけた制服が歴戦を物語っている……。ちょっと目つきがコワイ。

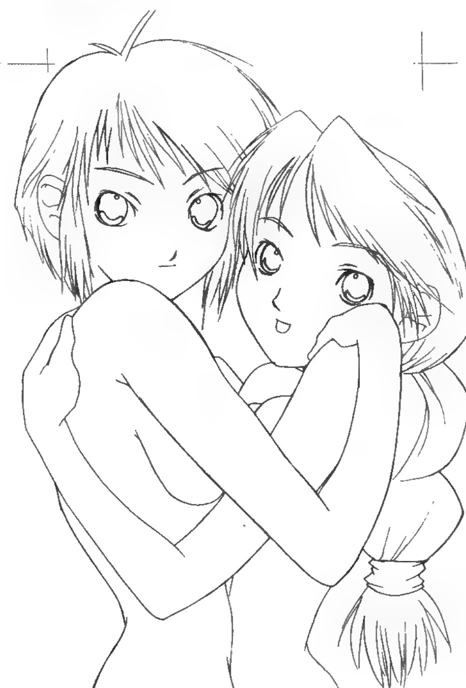




ポスター

ちょっとアブナイ雰囲気の広告用のポスターの原画。それぞれ上級生と下級生を組み合わせて作られている。眼鏡をかけていないみやこは結構レアかも？





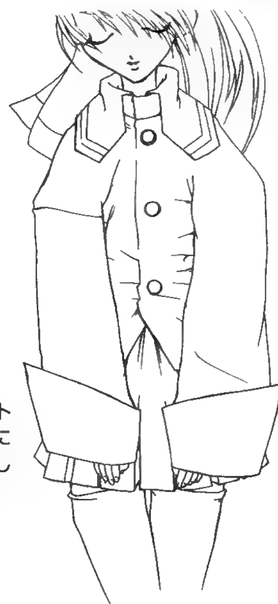
CD

ゲームのＣＤに印刷されているイラストの原画。ＣＤの形に合わせたデザインがされているのがよくわかる。基本的に販促物はまことを使ったものが多い。





パッケージ



ゲームのパッケージに使われたイラストの原画。パッケージでは渋めの色合いになっていたのでわかりにくかったかもしれないが、細部はこうなっている。

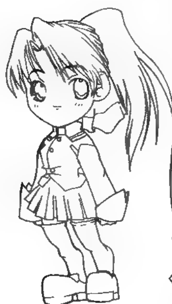
ホームページ

ホームページに掲載されているイラストの原画。まことの私服は、ゲームには登場しないオリジナル。



SDキャラ

こちらもマニュアルに使用されたＳＤイラストの原画。眼鏡を無くしたみやこと ちょっと澄ました表情の杏子がポイント。どうでもいいけど靴底がかなり厚い。



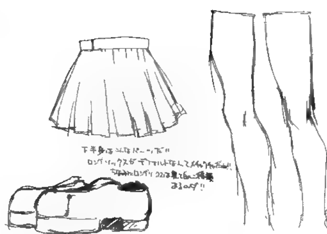






制服

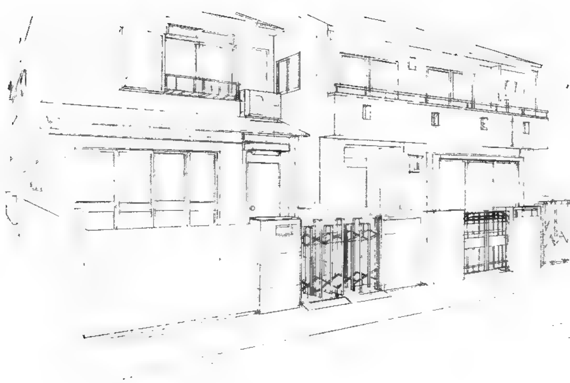




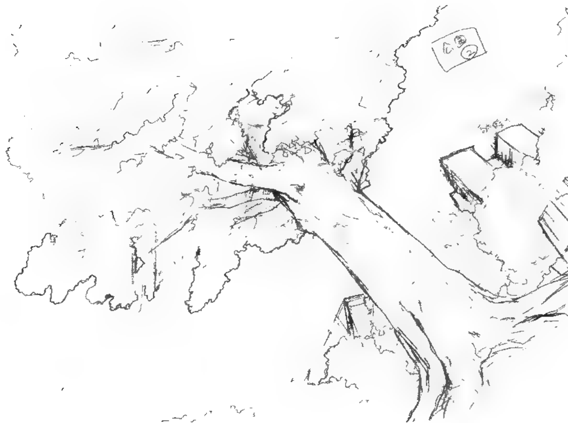
茜ヶ丘学院の制服の設定がコレ。シャツの袖がポイント。スカートはかなり短めだ。今回はこの冬服のみだったが、夏の制服はどうなっているのか気になるところ。

Back Ground

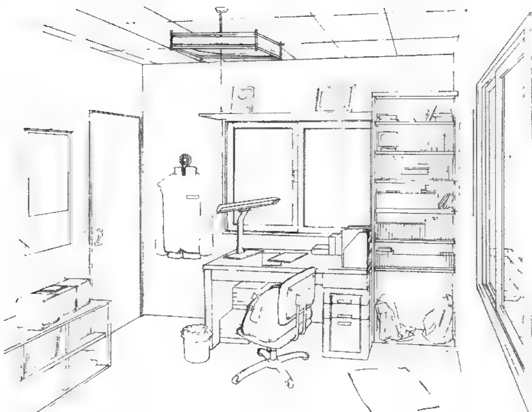
ゲームの雰囲気を盛り上げてくれる背景の原画も紹介しよう。かなり細かく描かれているのが分かってもらえるだろうか。













いちょうの舞う頃
エンディングへの道



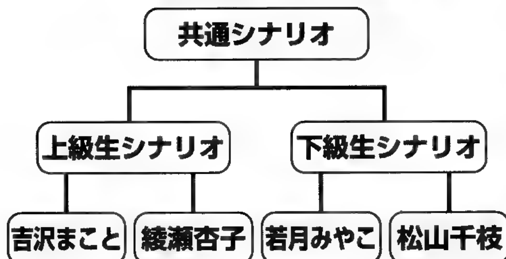



『いちょうの舞う頃』エンディングへの道

Autumn Colors How to Clear

「どうしても千枝ちゃんのシナリオに進めないんだ」といった人のために、ここではチャートを使ってシナリオ分岐を説明していこう。

基本的なシステム



このゲームは、大きく分けて共通シナリオと上級生シナリオ、下級生シナリオの3つに分かれている。この中で上級生と下級生のシナリオは、更にそれぞれまことと杏子、千枝とみやこの2つに分かれるのだ。

共通シナリオ
上級生、下級生シナリオに分岐するまでの共通シナリオ。期間は10/9から10/14までの約1週間。進め方によって、上級生、下級生のどちらのシナリオに分岐するかが決定されるので重要な部分といえる。

上級生シナリオ
まことと杏子とのシナリオ。基本的に選択肢が表示された時にまことよりの選択をすれば、まことのシナリオへと分岐していく。どっちつかずの選択をしているとバッドエンドになる可能性があるぞ。

下級生シナリオ
千枝とみやこのシナリオ。上級生シナリオと同様に誰よりの選択をしたかで、シナリオが千枝とみやこに分岐していく。選択を誤りバッドエンドシナリオに進んだ場合、ハッピーエンドを迎えるのは不可能となるので注意。

上級生シナリオ

上級生シナリオの場合、11/3までに選んだ選択肢の結果によって、まことシナリオに分岐するか杏子シナリオに分岐するかが決定される。それぞれのシナリオに進んだ後は、ゲーム後半の選択肢に注意しよう。最悪の場合、選択によっては、バッドエンドの可能性もある。ただ、バッドエンドに行かないと見られないCGもあるので注意。また、見ることが難しい、まこと、杏子、主人公の3人でお好み焼きを食べに行くというCGは、ゲーム後半までどっちつかずの選択をしたいた場合に見られる。

10/9 スタート

10/11 河原のみやこ
下級生シナリオへ分岐するために必要なフラグがある。河原のみやこを慰めれば下級生シナリオへと分岐できるようになる。

（みやこに話しかけた場合 → 10/13 ラブレター／話しかけなかった場合 → 上級生シナリオ）

10/13 ラブレター
みやこを慰めた場合、千枝がみやこが書いたラブレターを持ってくる。みやこを慰めていないとこのイベントは発生しない。

10/13 放課後
ラブレターで指定された場所に行った場合、下級生シナリオへと進む。行かなかった場合は上級生シナリオへ。

（行かない → 上級生シナリオ／行く → p110 下級生シナリオへ）

上級生シナリオ

10/15 杏子と下校
「魅力的～」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。「女の子から～」を選択した場合、何もなし。

10/19 まことと買い物へ
「そういうのも～」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「何も～」を選択した場合、何もなし。

10/20 杏子と一緒にお弁当
「食べる」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。「食べない」を選択した場合、何もなし。

10/21 まこと、杏子のお弁当
食べた方のフラグが立つ。両方食べた場合は、おいしいと答えた方のフラグが立つ。

10/23 図書室のまこと
「声をかける」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「声をかけない」を選択した場合、何もなし。

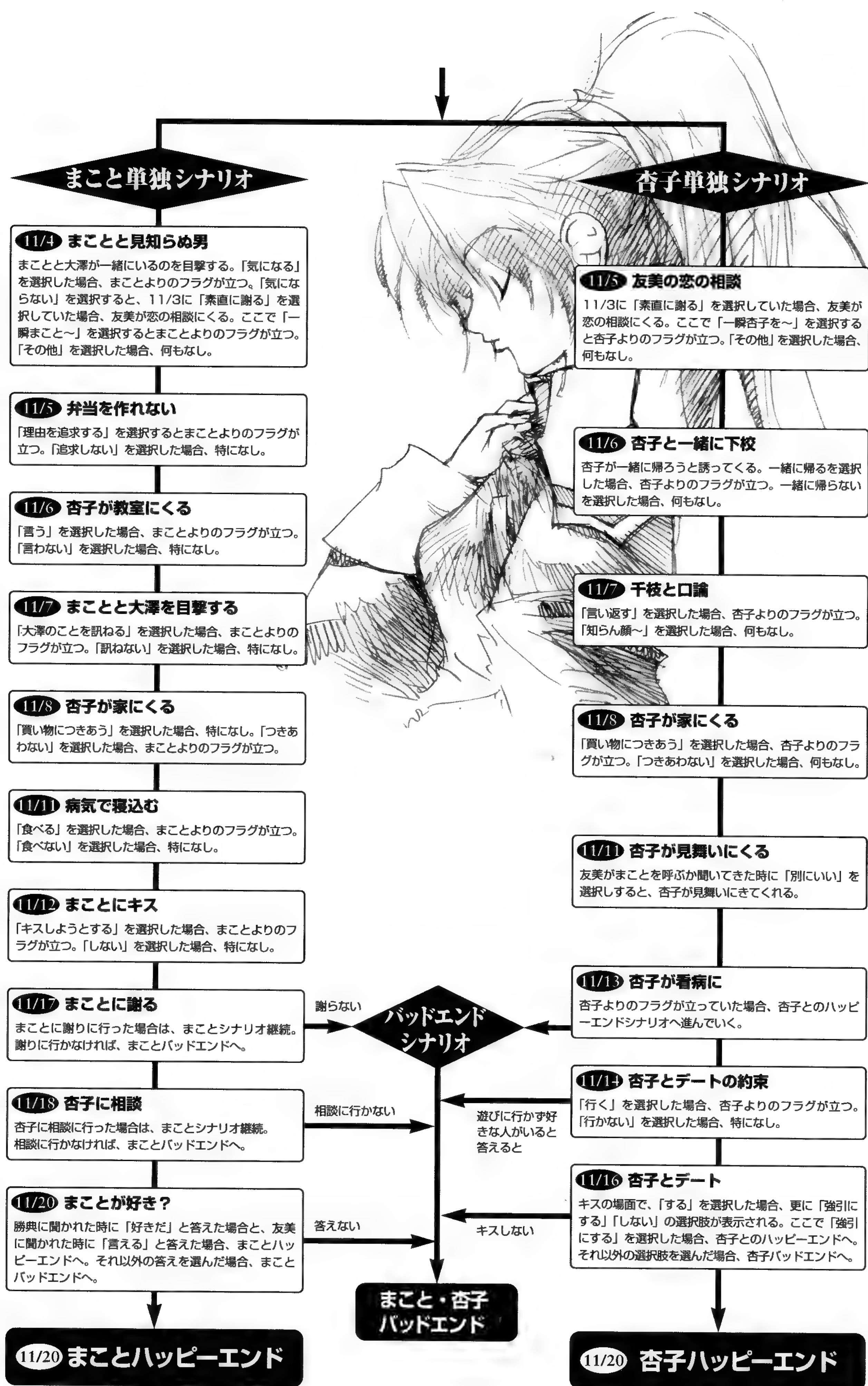
10/25 放課後にテスト勉強
「家に帰る」「教室に残る」を選択した場合、まことと杏子が現れ、勉強時に「まことが～」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「杏子が～」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。最初の選択肢で「図書室で～」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。

10/28 テスト勉強のお礼を言う
10/25にフラグを立てた女の子が登場する。お礼を言った場合、その女の子よりのフラグが立つ。お礼を言わない場合、何もなし。

11/1 お好み焼き
まことシナリオと杏子シナリオの分岐点。どちらかの女の子にフラグが片寄っていた場合、その女の子とお好み焼きを食べに行き、その女の子のシナリオへと分岐する。また、10/21と10/25に同じ女の子よりのフラグを立てた場合もその女の子とお好み焼きを食べに行くことになる。どっちつかずの場合、まことと杏子の二人と食べに行く。

11/3 友美に謝る
「素直に謝る」を選択した場合、後で友美が恋の相談にくる。「謝らない」を選択した場合、何もなし。

p109へ



まこと単独シナリオ

11/4 まことと見知らぬ男
まことと大澤が一緒にいるのを目撃する。「気になる」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「気にならない」を選択すると、11/3に「素直に謝る」を選択していた場合、友美が恋の相談にくる。ここで「一瞬まこと～」を選択するとまことよりのフラグが立つ。「その他」を選択した場合、何もなし。

11/5 弁当を作れない
「理由を追求する」を選択するとまことよりのフラグが立つ。「追求しない」を選択した場合、特になし。

11/6 杏子が教室にくる
「言う」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「言わない」を選択した場合、特になし。

11/7 まことと大澤を目撃する
「大澤のことを訊ねる」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「訊ねない」を選択した場合、特になし。

11/8 杏子が家にくる
「買い物につきあう」を選択した場合、特になし。「つきあわない」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。

11/11 病気で寝込む
「食べる」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「食べない」を選択した場合、特になし。

11/12 まことにキス
「キスしようとする」を選択した場合、まことよりのフラグが立つ。「しない」を選択した場合、特になし。

11/17 まことに謝る
まことに謝りに行った場合は、まことシナリオ継続。謝りに行かなければ、まことバッドエンドへ。

謝らない → バッドエンドシナリオ

11/18 杏子に相談
杏子に相談に行った場合は、まことシナリオ継続。相談に行かなければ、まことバッドエンドへ。

相談に行かない → バッドエンドシナリオ

11/20 まことが好き？
勝典に聞かれた時に「好きだ」と答えた場合と、友美に聞かれた時に「言える」と答えた場合、まことハッピーエンドへ。それ以外の答えを選んだ場合、まことバッドエンドへ。

答えない → バッドエンドシナリオ

11/20 まことハッピーエンド

杏子単独シナリオ

11/5 友美の恋の相談
11/3に「素直に謝る」を選択していた場合、友美が恋の相談にくる。ここで「一瞬杏子を～」を選択すると杏子よりのフラグが立つ。「その他」を選択した場合、何もなし。

11/6 杏子と一緒に下校
杏子が一緒に帰ろうと誘ってくる。一緒に帰るを選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。一緒に帰らないを選択した場合、何もなし。

11/7 千枝と口論
「言い返す」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。「知らん顔～」を選択した場合、何もなし。

11/8 杏子が家にくる
「買い物につきあう」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。「つきあわない」を選択した場合、何もなし。

11/11 杏子が見舞いにくる
友美がまことを呼ぶか聞いてきた時に「別にいい」を選択すると、杏子が見舞いにきてくれる。

11/13 杏子が看病に
杏子よりのフラグが立っていた場合、杏子とのハッピーエンドシナリオへ進んでいく。

11/14 杏子とデートの約束
「行く」を選択した場合、杏子よりのフラグが立つ。「行かない」を選択した場合、特になし。

遊びに行かず好きな人がいると答えると → バッドエンドシナリオ

11/16 杏子とデート
キスの場面で、「する」を選択した場合、更に「強引にする」「しない」の選択肢が表示される。ここで「強引にする」を選択した場合、杏子とのハッピーエンドへ。それ以外の選択肢を選んだ場合、杏子バッドエンドへ。

キスしない → バッドエンドシナリオ

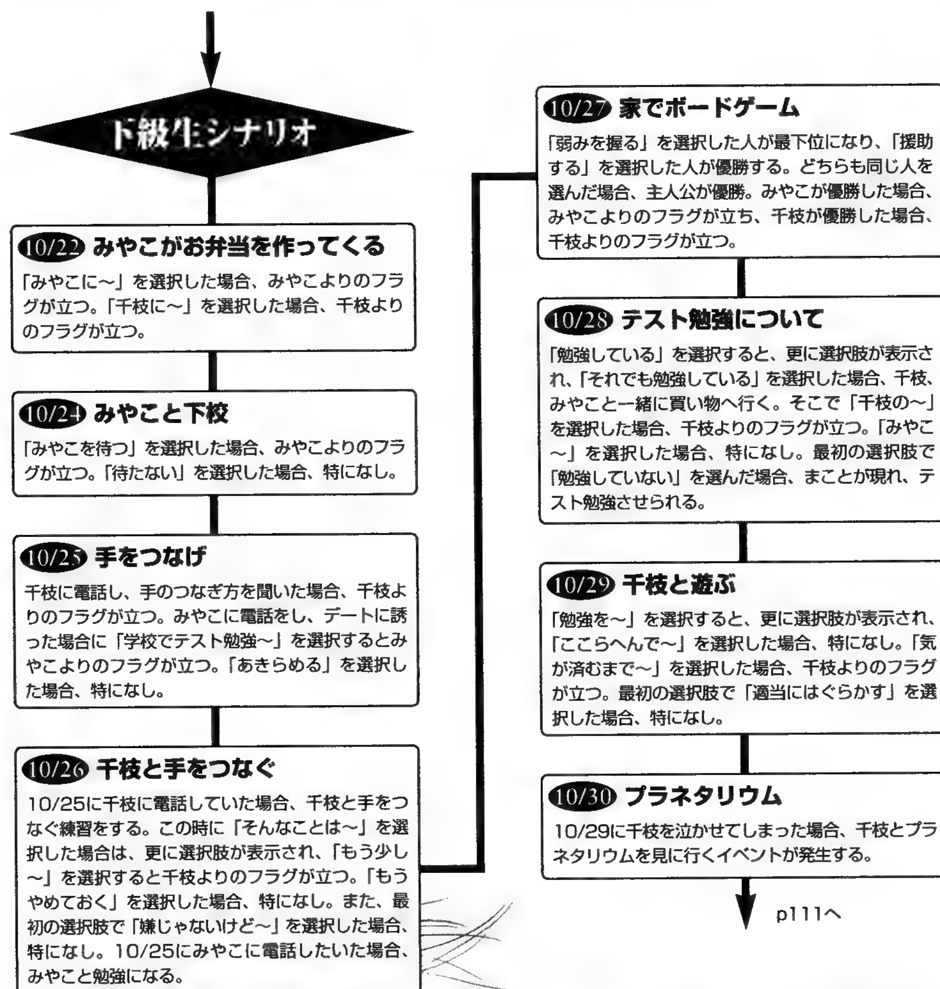
11/20 杏子ハッピーエンド

バッドエンドシナリオ

まこと・杏子バッドエンド

下級生シナリオ

下級生シナリオの場合、10/30までの進め方によって千枝のシナリオに分岐するかみやこのシナリオに分岐するかが決定される。それぞれのシナリオに進んだ場合の注意点として、みやこの場合、11/6と11/13の選択肢に注意してほしい。ここで誤った選択をした場合、バッドエンドシナリオへと進んでしまうのだ。千枝に関しては、11/3と11/4の選択肢が重要で、ここで選択を誤ると、みやこシナリオへと進んでしまい、千枝とのエンディングが見られなくなってしまう。11/16の選択肢も間違うとバッドエンドとなるので注意。



下級生シナリオ

10/22 みやこがお弁当を作ってくる
「みやこに～」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「千枝に～」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。

10/24 みやこと下校
「みやこを待つ」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「待たない」を選択した場合、特になし。

10/25 手をつなげ
千枝に電話し、手のつなぎ方を聞いた場合、千枝よりのフラグが立つ。みやこに電話をし、デートに誘った場合に「学校でテスト勉強～」を選択するとみやこよりのフラグが立つ。「あきらめる」を選択した場合、特になし。

10/26 千枝と手をつなぐ
10/25に千枝に電話していた場合、千枝と手をつなぐ練習をする。この時に「そんなことは～」を選択した場合は、更に選択肢が表示され、「もう少し～」を選択すると千枝よりのフラグが立つ。「もうやめておく」を選択した場合、特になし。また、最初の選択肢で「嫌じゃないけど～」を選択した場合、特になし。10/25にみやこに電話したいた場合、みやこと勉強になる。

10/27 家でボードゲーム
「弱みを握る」を選択した人が最下位になり、「援助する」を選択した人が優勝する。どちらも同じ人を選んだ場合、主人公が優勝。みやこが優勝した場合、みやこよりのフラグが立ち、千枝が優勝した場合、千枝よりのフラグが立つ。

10/28 テスト勉強について
「勉強している」を選択すると、更に選択肢が表示され、「それでも勉強している」を選択した場合、千枝、みやこと一緒に買い物へ行く。そこで「千枝の～」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「みやこ～」を選択した場合、特になし。最初の選択肢で「勉強していない」を選んだ場合、まことが現れ、テスト勉強させられる。

10/29 千枝と遊ぶ
「勉強を～」を選択すると、更に選択肢が表示され、「ここらへんで～」を選択した場合、特になし。「気が済むまで～」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。最初の選択肢で「適当にはぐらかす」を選択した場合、特になし。

10/30 プラネタリウム
10/29に千枝を泣かせてしまった場合、千枝とプラネタリウムを見に行くイベントが発生する。

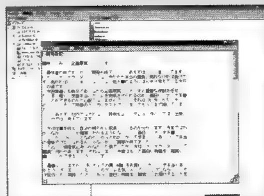
p111へ



いちょうの舞う頃ちょっといい話し？

CDの中を覗いてみよう

installdiskの中にある開発後記というテキストファイルを開くと、シナリオをはじめ、開発スタッフの方々のコメントが見られるのだ。Typesさんの処女作だけに苦労も多かったが、得るものも多かったようだ。



Windowsに付属しているエクスプローラーなどでinstalldiskの中身を覗いてみよう。

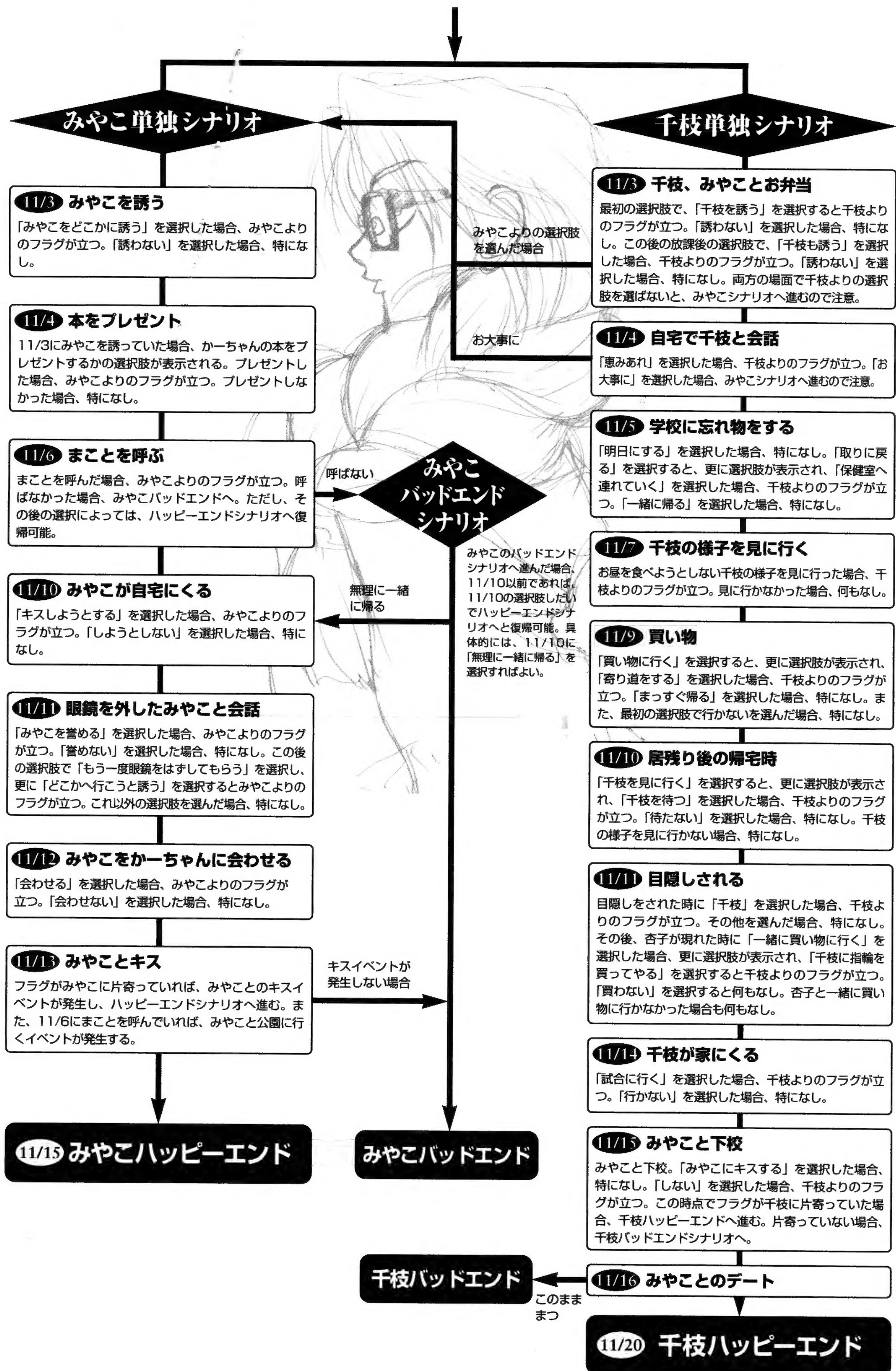
ホームページへ行ってみよう

まだ出来たばかりでコンテンツは少ないけど、ギャラリーもあるし、デザインもすっきりしているし、いい感じのホームページ。しかも、シナリオ担当の林さんのホームページにもリンクしているのだ。

http://www.cyberworks.co.jp/~types/



なんと、あのつぐみちゃんのグラフィックも見られる!!　でもオフィシャルじゃないよ。


みやこ単独シナリオ
11/3 みやこを誘う
「みやこをどこかに誘う」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「誘わない」を選択した場合、特になし。
11/4 本をプレゼント
11/3にみやこを誘っていた場合、かーちゃんの本をプレゼントするかの選択肢が表示される。プレゼントした場合、みやこよりのフラグが立つ。プレゼントしなかった場合、特になし。
11/6 まことを呼ぶ
まことを呼んだ場合、みやこよりのフラグが立つ。呼ばなかった場合、みやこバッドエンドへ。ただし、その後の選択によっては、ハッピーエンドシナリオへ復帰可能。
11/10 みやこが自宅にくる
「キスしようとする」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「しようとしない」を選択した場合、特になし。
11/11 眼鏡を外したみやこと会話
「みやこを誉める」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「誉めない」を選択した場合、特になし。この後の選択肢で「もう一度眼鏡をはずしてもらう」を選択し、更に「どこかへ行こうと誘う」を選択するとみやこよりのフラグが立つ。これ以外の選択肢を選んだ場合、特になし。
11/12 みやこをかーちゃんに会わせる
「会わせる」を選択した場合、みやこよりのフラグが立つ。「会わせない」を選択した場合、特になし。
11/13 みやことキス
フラグがみやこに片寄っていれば、みやことのキスイベントが発生し、ハッピーエンドシナリオへ進む。また、11/6にまことを呼んでいれば、みやこと公園に行くイベントが発生する。
11/15 みやこハッピーエンド
みやこよりの選択肢を選んだ場合
お大事に
呼ばない
みやこバッドエンドシナリオ
みやこのバッドエンドシナリオへ進んだ場合、11/10以前であれば、11/10の選択肢しだいでハッピーエンドシナリオへと復帰可能。具体的には、11/10に「無理に一緒に帰る」を選択すればよい。
無理に一緒に帰る
キスイベントが発生しない場合
みやこバッドエンド
千枝単独シナリオ
11/3 千枝、みやことお弁当
最初の選択肢で、「千枝を誘う」を選択すると千枝よりのフラグが立つ。「誘わない」を選択した場合、特になし。この後の放課後の選択肢で、「千枝も誘う」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「誘わない」を選択した場合、特になし。両方の場面で千枝よりの選択肢を選ばないと、みやこシナリオへ進むので注意。
11/4 自宅で千枝と会話
「恵みあれ」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「お大事に」を選択した場合、みやこシナリオへ進むので注意。
11/5 学校に忘れ物をする
「明日にする」を選択した場合、特になし。「取りに戻る」を選択すると、更に選択肢が表示され、「保健室へ連れていく」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「一緒に帰る」を選択した場合、特になし。
11/7 千枝の様子を見に行く
お昼を食べようとしない千枝の様子を見に行った場合、千枝よりのフラグが立つ。見に行かなかった場合、何もなし。
11/9 買い物
「買い物に行く」を選択すると、更に選択肢が表示され、「寄り道をする」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「まっすぐ帰る」を選択した場合、特になし。また、最初の選択肢で行かないを選んだ場合、特になし。
11/10 居残り後の帰宅時
「千枝を見に行く」を選択すると、更に選択肢が表示され、「千枝を待つ」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「待たない」を選択した場合、特になし。千枝の様子を見に行かない場合、特になし。
11/11 目隠しされる
目隠しをされた時に「千枝」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。その他を選んだ場合、特になし。その後、杏子が現れた時に「一緒に買い物に行く」を選択した場合、更に選択肢が表示され、「千枝に指輪を買ってやる」を選択すると千枝よりのフラグが立つ。「買わない」を選択すると何もなし。杏子と一緒に買い物に行かなかった場合も何もなし。
11/14 千枝が家にくる
「試合に行く」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。「行かない」を選択した場合、特になし。
11/15 みやこと下校
みやこと下校。「みやこにキスする」を選択した場合、特になし。「しない」を選択した場合、千枝よりのフラグが立つ。この時点でフラグが千枝に片寄っていた場合、千枝ハッピーエンドへ進む。片寄っていない場合、千枝バッドエンドシナリオへ。
11/16 みやことのデート
このまままつ
千枝バッドエンド
11/20 千枝ハッピーエンド

いちょうの舞う頃
AutumnColors

ART COLLECTION

ゲーメストムック/EXシリーズVol.74
いちょうの舞う頃　ART COLLECTION
平成10年12月27日　第1版第1刷発行

発行人●加藤　博
編集人●高橋己代子
進行管理●伊藤勝章　野口　晶　中村　健
アシスタント●鳥塚享亭　沼田孝一　関川雄介
制作・編集●株式会社スタジオ・ハード　齋木美香　加藤和弘　仁木伸明
デザイン●ユメックス株式会社
印刷●共立印刷株式会社
発行所●株式会社新声社
制作協力●有限会社サイバーワークス

〒101-8935　東京都千代田区神田神保町1-26
代表03-3293-9321　編集03-3293-9336

ゲーメストムック/EXシリーズVOL.74



いちょうの舞う頃
AutumnColors

読者アンケート

☆この本の値段はどうですか？

高い　　普通　　安い

☆良かったところ、悪かったところをお書き下さい。

[　　　　　　　　　　　　]

☆これから欲しいと思うソフト名をお書き下さい。

[　　　　　　　　　　　　]

☆今、もっともハマっていることは何ですか？

[　　　　　　　　　　　　]

☆定期に購入している雑誌等をお書き下さい。

[　　　　　　　　　　　　]

☆この本の感想をお書き下さい。

[　　　　　　　　　　　　]

どうもありがとうございました。

郵便ハガキ

切手を貼って
下さい

101-8935

東京都千代田区神田神保町1-26
株式会社 新声社
ムック編集部

EXシリーズVOL.74
「いちょうの舞う頃 AutumnColors」係

※アンケートに答えていただいた中から抽選で粗品をさし上げます。

お名前		年齢	歳	男・女
ご住所	〒 ☎			
ご職業				
お買い上げ年月日	年 月 日			
お買い上げ店名				